

ユーザーズ・マニュアル

_PITCH SHIFTER-910

ARTURIA

_The sound explorers

スペシャル・サンクス

ディレクション

Frédéric Brun

プロダクト・マネジメント

Callum Magill (lead)	Clément Bastiat	Christophe Luong	Pierre Pfister
Maxime Audfray	Cédric Coudyser	Edouard Madeuf	

開発

Pauline Alexandre (lead)	Valentin Bonhomme	Alessandro De Cecco	Samuel Lemaire
Gonçalo Bernardo (lead)	Violaine Burlet	Loris De Marco	Cyril Lepinette
Marc Antigny	Yann Burrer	Valentin Foare	Samuel Limier
Kevin Arcas	Hugo Caracalla	Davide Gioiosa	Fabien Meyrat
Clement Bastiat	Corentin Comte	Geoffrey Gormond	Mathieu Nocenti
Gonçalo Bernardo	Andrea Coppola	Nathan Graule	Marie Pauli
Alexandre Adam	Lucile Cossou	Rasmus Kürstein	Patrick Perea
Stéphane Albanese	Raynald Dantigny	Florent Lagaye	Fanny Roche
Baptiste Aubry	Valentin Darmon	Pierre-Lin Laneyrie	Adrien Tisseraud
Timothée Behety	Mauro De Bari	Marius Lasfargue	Pierre-Hugo Vial

デザイン

Ulf Ekelöf	Maxence Berthiot	Paul Erdmann
------------	------------------	--------------

サウンド・デザイン

Lily Jordy (lead)	Quentin Feuillard	Martin Rabiller
Florian Marin	Joseph Gilling	Joe Sheldrick

品質保証

Léo Chardon (lead)	Bastien Hervieux	Félix Roux	Nicolas Stermann
Matthieu Bosshardt	Germain Marzin	Enrique Vela	Matthieu Visoz
Pierre Fleury	Aurélien Mortha	Roger Schumann	Aude De Bellefond

マニュアル

Robin Vincent	Ana Artalejo (スペイン語)	Holger Steinbrink (ドイツ語)
Félicie Khenkeo	Minoru Koike (日本語)	Charlotte Métais (フランス語)

ベータ・テストिंग

Chuck Zwicky	Richard Courtel	jmcecil	Andrew Capon
Fernando Manuel Rodrigues	Ken Flux Pierce	David Birdwell	Taylor White
Gustavo Bravetti	Paolo Negri	Rian Wiggins	Fernando M Rodrigues
Chuck Capsis	Mat Herbert	Stephen Wey	
Jay Janssen	Gary Morgan	Andrew Macaulay	
Jeffrey Cecil	Davide Puxeddu	Terry Marsden	

Product version: 1.0.0

Revision date: 23 June 2026

使用上のご注意

本マニュアルでは、Pitch SHIFTER-910 の使用方法、機能の概要、ダウンロードとアクティベーションの手順について詳しくご紹介します。まず、重要な注意事項をいくつかご紹介します：

仕様変更について：

本マニュアルに記載の各種情報は、本マニュアル制作の時点では正確なものです。改良等のために仕様を予告なく変更することがあります。

重要：

本ソフトウェアは、アンプやヘッドフォン、スピーカーで使用された際に、聴覚障害を起こすほどの大音量に設定できる場合があります。そのような大音量や不快に感じられるほどの音量で本ソフトウェアを長時間使用しないでください。

難聴などの聴力低下や耳鳴りなどが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けてください。

注意：

機能の動作方法等に関する知識不足による誤った操作から発生する問題に対してのサポート（ソフトウェアが正常に動作している場合）は保証の対象外となり、料金が発生します。まずこのマニュアルを熟読し、販売店とご相談の上、サポートを依頼されることをお勧めします。

はじめに

Pitch SHIFTER-910 をお買い上げいただき、誠にありがとうございます

この度は、Pitch SHIFTER-910 をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本製品は、デジタル・ピッチシフトを通じて、インスピレーションに満ちた、そして時に不安定な音楽の旅へと誘うために開発されたオーディオエフェクト・プラグインです。1970年代半ばの画期的な機材をベースに設計されており、それ以来、レコーディングなどの制作現場においてさまざまな理由でこれほど広く愛用されてきた理由を、すぐに実感していただけることと思います。

優れた製品を開発するという Arturia の情熱は、Pitch SHIFTER-910 においても例外ではありません。プリセットを選ぶだけでも、わずかにエディットするだけでも、完全に没頭するほどディープにダイブするのも、すべてお好み次第、思いのままです。

Arturia のハードウェアやソフトウェアインストゥルメント、エフェクト、MIDI コントローラー等各種製品のチェックに、[Arturia ウェブサイト](#)をご活用ください。アーティストにとって不可欠で刺激的なツールが揃っています。

より豊かな音楽ライフを

The Arturia team

目次

1. Pitch Shifter-910 へようこそ	3
1.1. ピッチシフトの歴史	3
1.2. Pitch SHIFTER-910 で追加された機能	4
1.3. Pitch SHIFTER-910 主な特長	5
2. アクティベーションと最初の設定	6
2.1. 互換性について	6
2.2. ダウンロードとインストール	6
2.2.1. Arturia Software Center (ASC)	6
2.3. プラグインとして動作	7
2.3.1. オーディオと MIDI の設定	7
3. ユーザーインターフェイスの概要	8
4. Upper Toolbar - アッパーツールバー	9
4.1. メインメニュー	9
4.1.1. New Preset	9
4.1.2. Save Preset	10
4.1.3. Save Preset As	10
4.1.4. Save as Opening Preset	11
4.1.5. Import	11
4.1.6. Export	11
4.1.7. Resize	12
4.1.8. Tutorials	13
4.1.9. Help	14
4.1.10. About	14
4.2. プリセットを選択する	14
4.2.1. プリセットブラウザー・ボタン	14
4.2.2. プリセット名表示エリア	14
4.2.3. 上下の矢印アイコン	15
4.2.4. Like ボタン	15
4.3. A/B 比較ボタン	15
4.4. Advanced ボタン	16
4.5. 出力レベルノブ	16
5. Main Controls	17
5.1. Input	18
5.2. Shifter	19
5.2.1. Pitch	19
5.2.2. Formant	20
5.2.3. Formant Link	20
5.2.4. Formant Bypass	20
5.2.5. Mode	20
5.3. Delay / Pitched Delay	21
5.3.1. Rate	21
5.3.2. Feedback	21
5.3.3. EQ LP/HP	22
5.3.4. Offset (ステレオトラック使用時のみ)	22
5.3.5. Mix (ディレイのみ)	22
5.4. Output	23
5.4.1. Mix	22
5.4.2. Mix Lock	23
5.4.3. Brightness	23
6. Advanced Controls	24
6.1. Voice Mode	24
6.2. Vibrato	25
6.3. MIDI IN	26
6.3.1. MIDI コントロールの動作について	27
6.3.2. MIDI IN パネル	28
6.3.3. MIDI Mode	30
6.4. MIDI IN Routing Guide - ルーティングガイド	31
6.4.1. Ableton Live での設定手順	31
6.4.2. Cubase での設定手順	34
6.4.3. FL Studio での設定手順	36

6.4.4. Logic Pro での設定手順.....	38
7. Lower Toolbar.....	40
7.1. パラメーター情報エリア.....	40
7.2. MIDI Mode.....	40
7.3. Bypass.....	40
7.4. アンドウ.....	41
7.5. エディット履歴.....	41
7.6. リドゥ.....	41
7.7. CPU メーター.....	41
7.8. リサイズハンドル.....	41
8. Working with Presets - プリセット関連の作業.....	42
8.1. プリセットネーム表示エリア.....	42
8.1.1. 矢印アイコン.....	42
8.1.2. クイックブラウザー.....	43
8.2. The Preset Browser - プリセットブラウザー.....	44
8.2.1. Searching Presets - プリセットの検索.....	44
8.2.2. タグで絞り込む.....	45
8.2.3. The Results Pane - 検索結果表示エリア.....	47
8.2.4. Preset Info Section - プリセット情報.....	49
9. ソフトウェア・ライセンス契約.....	52

1. PITCH SHIFTER-910 へようこそ



ピッチシフト、そしてピッチ破壊エフェクトプラグインである Pitch SHIFTER-910 をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本プラグインは、1970年代中盤に登場し、ピッチと再生スピードとの関係と断ち切るという、これまで考えられなかったことを初めて実現したハードウェア機材をベースに、そしてそこからヒントを得て開発しました。この機材の登場により、リードラインやメロディ、ボーカルに、これまでにない説得力のあるハーモニーを加えることが可能になりました。しかし、その可能性はそれだけではありませんでした。少し手を加えるだけで、エンジニアやミュージシャンたちは、モノシンセでコードを奏でたり、ベースラインに厚みを持たせて音程をずらしたり、スネアの音を太くしたり、ボーカルを補正したり、ギターを奇妙な惑星間冒険へと送り出したりできることに気付いたのです。

Arturia Pitch SHIFTER-910 は、そのクラシックな機材の個性を余すところなく再現し、荒々しいトーンと音楽的な予測不可能性を存分に活かしています。しかし、ボーカル、シンセ、楽器のエフェクト処理でより現代的なアプローチを実現するため、よりクリーンなオプションも追加しました。フォルマントシフトのための高度なツール、複数台使用した状態を再現するボイスモード、絶妙に不規則なビブラート、そして MIDI 駆動のハーモニー生成機能などが搭載されています。そういう意味から、"ピッチシフター"という名称は少し控えめすぎるかも知れません。Pitch SHIFTER-910 に組み込まれたこうした魅力的なテクノロジーに、数え切れないほどの活用法が見つかるはずです。

1.1. ピッチシフトの歴史

録音技術が誕生して以来、再生スピードを速くしたり遅くしたりすることで生じる、よく笑いを誘うような効果を楽しんできました。アニメのスタジオではこの手法をうまく活用して、アニメキャラクターのユニークな声を作り出しています。レス・ポールやビートルズといった革新的なミュージシャンたちは、テープデッキやレコードプレイヤーの可変速機能を駆使して、ピッチシフトの先駆者となりました。しかし、こうしたアナログ方式の欠点は、ピッチが常に再生スピードに縛られていたことです。彼らはこの問題を最小限に抑えるために、例えばゆっくり演奏して半分のスPEEDで録音するなど、独創的な方法を考案する必要に迫られていました。そうすることで、通常のスPEEDで再生したときに、ピッチが変化しつつも、聴き取れるサウンドを作り上げていました。

デジタル信号処理 (DSP) がスタジオに導入されるようになって初めて、ピッチシフトは単なる実験的な手法から、実用的なクリエイティブツールへと変貌を遂げました。その最大のメリットは、DSP が通過するオーディオの再生スピードを変えずにピッチを変換できる点にありました。これは驚くべき技術的進歩であり、即座に多岐にわたる活用法が出てきました。もちろん、ハーモニーを作り出すこともできましたが、ピッチの補正、ボーカルのデチューン、ステレオの広がりやの拡大、音の厚み付け、デジタルディレイの生成、さらには無限のフィードバックへと陥ることさえもできました。この技術にわずかにあった不安定さが、ボーカルトラックに非常に人間味のある感触を加え、意図せずして魅力的な効果を生み出したのです。

この効果は、AC/DC、レッド・ツェッペリン、フランク・シナトラ、スザンヌ・ヴェガ、U2、デヴィッド・ボウイ、フランク・ザッパといったアーティストの幅広い作品で見られました。この技術をいち早く採用したのはニューヨーク市の放送局チャンネル5で、同局はテレビドラマ『アイ・ラブ・ルーシー』の再放送を少し早送りして CM 枠を増やし、ピッチを下げるためにこの技術を使用していました。

その後、数多くのハードウェア・ピッチシフターが次々と登場し、現在も、特にギター・エフェクターとして高い人気を誇っています。ボーカル処理の大部分は、今や至るところで見られる Autotune のようなソフトウェア・プラグインに取って代わられました。Autotune はその性能の素晴らしさやクリアな音質で印象的ですが、初期のデジタルハードウェアが持つ独特の個性には欠けています。Arturia Pitch SHIFTER-910 は、その個性を余すところなく再現し、ハーモナイズにビンテージデジタルならではの風合いを加えることができます。

1.2. Pitch SHIFTER-910 で追加された機能

ハードウェアを直接操作する感触の良さは格別ですが、こうした古い機材は入手が難しく、高価で故障しやすいという欠点があります。ワークフローが統合され、ハイブリッド化が進んでいる現代でも、古い機材を最新の環境に組み込むのは簡単ではありません。また、1台の機材で一度に1つの作業しか行えないため、これが大きな制約となることもあります。

Arturia のプラグインは、オリジナルのハードウェアが持つすべてのサウンドや個性をそのままに、ユーザーのワークフローへシームレスに溶け込む製品を目指しています。そのため、手間を掛けずに繊細で本物同様の挙動を実現できます。

操作体系は、柔軟で現代的な作業をしやすいようにオリジナルから改良しました。エフェクトプロセッサの各セクションで、より詳細な設定や調整ができるようになりました。インプット部では、レベルとドライヴが独立しており、ディストーションを効かせたいときとそうでないときを自由に切り替えることができます。また、シフター部はピッチとフォルマントに分割され、ピッチを変えずにサウンドキャラクターを自在に調整できるようになりました。Vintage スイッチを切り替えることで、オリジナルハードウェア特有の質感と、現代的な処理によるクリアなサウンドのどちらかを選択できます。ディレイには専用のセクションが設けられており、実用的な EQ、テンポに連動する可変レートノブ、ステレオの広がり进行调整するオフセットノブ、そしてディレイの自己発振に欠かせないフィードバックノブが装備されています。最後に、アウトプット部には音の明るさを調整するティルト EQ が用意されています。

Pitch SHIFTER-910 には、アドバンスドパネルのパラメーターもあります。MIDI コントローラーやシーケンサーを使用して、ピッチ、レベル、モジュレーションをコントロールできます。また、ボイスモードではピッチシフターを2台使用し、ユニゾンモードやデュアルモノモードを実現することで、デチューニングやステレオの広がり演出できます。さらに、アドバンスドパネルの最後を飾るのは、意図的に不安定に設計されたビブラート機能で、エフェクトに豊かな動きを加えることができます。

プリセットも豊富に用意されていますので、Pitch SHIFTER-910 のさまざまな可能性を探ることができます。

1.3. Pitch SHIFTER-910 主な特長

- 初期デジタル・ピッチシフターの伝説的なスタジオサウンドを忠実に再現。
- 上下1オクターブのクラシックなピッチシフト。
- 初期デジタル特有の、ザラッとして不規則な処理。
- 劣化の少ないクリーンな音質モードも搭載。
- ピッチとフォルマントを別々に調整可能。
- ピッチやレベル、モジュレーションを MIDI 経由でコントロール可能。
- ピッチシフト・ディレイや音の厚み付けに便利なディレイ部を搭載。
- ディレイのフィードバック内にローパスとハイパスフィルターを搭載。
- ディレイのステレオ効果を高めるオフセット機能を内蔵。
- ヒューマナイザーによる自然なビブラートが作成可能。
- ユニゾン、デュアルモノのボイスモードを搭載。
- インプット部にドライブ機能を内蔵し、入力音を歪ませることが可能。
- アウトプット部にティルト EQ を搭載。
- オリジナルハードウェアのラックマウントと7セグメント LED によるピッチシフト量表示を踏襲したグラフィック。

2. アクティベーションと最初の設定

2.1. 互換性について

Pitch SHIFTER-910 は Windows 8.1 またはそれ以降、macOS 10.13 またはそれ以降のコンピュータで動作します。現行世代の Apple シリコンプロセッサと、インテル製プロセッサ（および同等品）に対応しています。お使いのレコーディングソフトウェア（DAW）の Audio Units、AAX、VST2、VST3 のプラグインとして使用できます。



2.2. ダウンロードとインストール

Pitch SHIFTER-910 は、[Arturia 製品ページ](#)で **Buy Now** または **Get Free Demo** をクリックすることでダウンロードできます。フリーデモは使用時間が20分に制限されています。

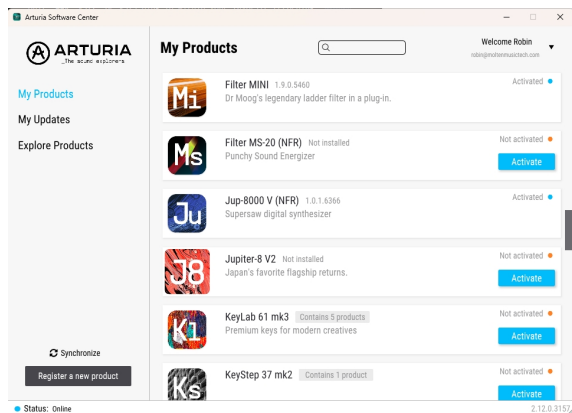
Arturia アカウントをお持ちでない場合は、[My Arturia ウェブページ](#)に表示される指示に従ってアカウントを作成されることをお勧めします。

Pitch SHIFTER-910 をインストールしましたら、次のステップは製品登録です。この手続きは **Arturia Software Center** という別のソフトウェアで簡単に行えます。

2.2.1. Arturia Software Center (ASC)

Arturia Software Center のインストールがまだでしたら、こちらのウェブページからダウンロードしてください：[Arturia ダウンロード & マニュアル](#)

Arturia Software Center はページのトップ付近にあります。お使いのシステムに合ったインストーラー (Windows または macOS 用) をダウンロードしてください。ASC はお持ちの Arturia アカウントのリモートクライアントで、お持ちの Arturia ソフトウェアの全ライセンスの管理やソフトウェアのダウンロード、アップデートなどをワンストップで行える便利なアプリケーションです。



ASC のインストールが済みましたら、次の操作をします：

- Arturia Software Center (ASC) を開きます。
- ASC の画面からお持ちの Arturia アカウントでログインします。
- ASC の画面を **My Products** セクションまで下にスクロールします。
- 使用したいソフトウェア名 (この場合は Pitch SHIFTER-910) の隣にある **Activate** ボタンをクリックします。
- この操作で現在お使いのコンピュータ上にある Pitch SHIFTER-910 のライセンスをアクティベートします。ホームスタジオでご使用のコンピュータと、移動用のラップトップというように、複数のコンピュータでライセンスをアクティベートすることができます。 - お使いのコンピュータにソフトウェアをインストールするときは、Install ボタンをクリックします。
- インストール時は、お使いのコンピュータに表示される指示に従って作業を進めてください。

これで準備完了です！

2.3. プラグインとして動作

Pitch SHIFTER-910 は Cubase、Digital Performer、Live、Logic、Pro Tools、Reaper、Studio Pro など主要なデジタル・オーディオ・ワークステーション (DAW) のプラグインとして動作します。

プラグインにはハードウェアにはない、次のようなメリットがあります：

- お使いのコンピュータの CPU が耐えられる範囲で複数の Pitch SHIFTER-910 を同時に使用することができます。
- DAW のオートメーション機能を使用してプラグインのパラメーターを自動制御することができます。
- プラグインの各種セッティングは DAW のプロジェクトの一部として保存され、次回そのプロジェクトを開いたときに以前と同じセッティングを再現できます。

2.3.1. オーディオと MIDI の設定

Pitch SHIFTER-910 はプラグイン動作のみですので、オーディオと MIDI に関する各種設定はレコーディングソフト (DAW) で行います。これらの設定は「プリファレンス」や「設定」メニューにあることが一般的ですが、具体的な設定方法は DAW によって違いがありますので、オーディオインターフェイスの洗濯方法やオーディオ出力、サンプルレート、MIDI ポートのアサイン、プロジェクトのテンポ、バッファサイズ等々の設定方法の詳細につきましては、お使いの DAW のマニュアル等をご参照ください。

これで各種設定が完了しました。ここからは、プラグインを実際に使ってみましょう！

3. ユーザーインターフェイスの概要

まずは Pitch SHIFTER-910 のインターフェイスの概要から始めましょう。そうすれば、操作の流れに慣れ、すぐにサウンドの加工に取り掛かることができます。基本をしっかりと理解したら、リンク先を参照して、本プラグインのあらゆる機能に関するさらに詳しい説明やガイドに移っても困ることはきっとないかと思います。



#	エリア	内容
1.	アップパーツールバー [p.9]	Pitch SHIFTER-910 のメインメニューやプリセットブラウザー、A/B 比較ツール、アドバンストパネルを開くボタン、マスターアウトブツレベルにアクセスできます。
2.	メインパネル [p.17]	ピッチやフォルマントシフト、ディレイ、フィードバック、インブツとアウトブツパラメーター、メインディスプレイといった Pitch SHIFTER-910 の基本的なパラメーターがあります。
3.	アドバンストパネル [p.24]	アップパーツールバーにある Advanced ボタンをクリックすると、このパネルが開きます。MIDI インプツやボイスモード、ビブラートの各セクションがあります。
4.	ロワーツールバー [p.40]	ここにはツールチップ表示、バイパスボタン、アンドゥ/リドゥ機能、CPU メーター、画面サイズ変更ハンドルがあります。

上記のリンクをクリックすると、それらの機能を紹介する本マニュアルの各ページにジャンプできます。その時時に必要なことを、あちこち飛び回りながら学ぶのはまったく問題ありませんが、少なくとも一度は本マニュアルを順番にご覧になることをお勧めします。Pitch SHIFTER-910 は、マニュアルを見なくても多くのことができるように設計されていますが、最初はわからない微妙なトリックもあります。マニュアルを読むことで、このプラグインでできることをしっかりと把握することができます。

4. UPPER TOOLBAR - アッパーツールバー

メインパネルへ飛ぶ前に、Pitch SHIFTER-910 の画面最上部にあるアッパーツールバーをご紹介します。ここにはメインメニュー、プリセットブラウザー、A/B 比較スイッチ、アドバンストパネルを開くボタン、本プラグインの全体音量を調整するノブがあります。では、左から順に見ていきましょう。



4.1. メインメニュー

アッパーツールバーの左端にある「ハンバーガー」アイコン (横3本線のアイコン) をクリックすると、メインメニューが開きます。ここにはプリセット関係の各種コマンドをはじめ、画面サイズの変更や Pitch SHIFTER-910 を使い始めるときに頼りになるヘルプやチュートリアルなどの機能が入っています。メニューの上から順に1つずつ見ていきましょう。



4.1.1. New Preset

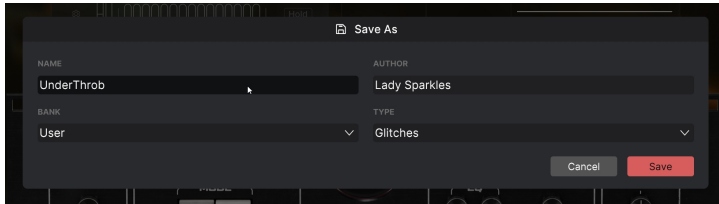
全パラメーターがデフォルト (初期設定) 状態のプリセットを新規作成します。このプリセットは、Pitch SHIFTER-910 の各種機能がすべてオフになっていますので、ここから独自のエフェクトを作り上げるのに適しています。

4.1.2. Save Preset

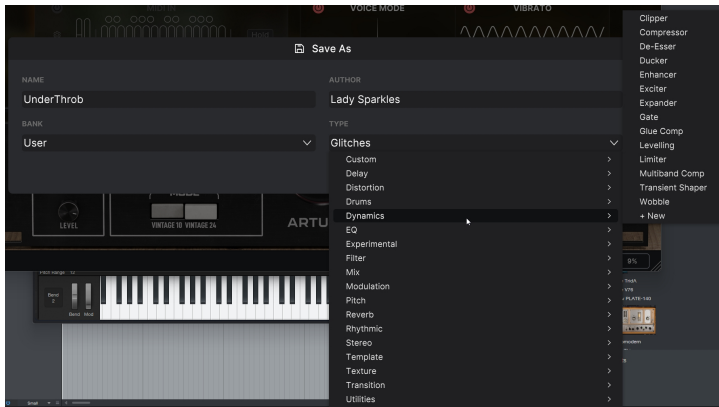
選択したプリセットに行った変更 (エディット) を同じプリセットに上書き保存します。このコマンドはユーザープリセットでのみ表示されますので、ファクトリープリセットや「New Preset」で新規作成したデフォルトプリセットを選択しているときはグレーアウト表示になり、使用できません。最初にプリセットを保存するときは、この次にご紹介するコマンドを使用します。

4.1.3. Save Preset As

選択したプリセットに行ったエディットを、別のプリセットとして保存します。このコマンドをクリックすると「Save as」画面が開き、そこにプリセット名や作成者名を入力したり、そのプリセットの特徴を表すタイプを選択したり、別のタイプを追加することができます。デフォルトでは「User」バンクに保存しますが、バンクを新規作成してわかりやすいように保存することもできます。



Pitch SHIFTER-910 では、豊富なタイプやサブカテゴリーでプリセットを詳細に分類できるようになっています。タイプの内容は、「TYPE」のポップアップメニューをクリックすると表示されます。



プリセットの特徴をうまく表すタイプがないときは、新たなタイプを作成できます。

 ! BANK、AUTHOR (作成者名)、TYPE の各フィールドに入力しておくと、[プリセットブラウザ \[p.44\]](#) でプリセットを検索するときに便利です。

4.1.4. Save as Opening Preset

このオプションは、現在選択しているプリセットを、Pitch SHIFTER-910 を開いたときに最初に表示されるプリセットに指定するときに使用します。普段よく使うプリセットや、作業を始めるときによく使う設定があるかも知れませんが、このオプションを使用することで、プラグインを読み込んだ瞬間にそれらをデフォルトで使用できるようになります。

4.1.5. Import

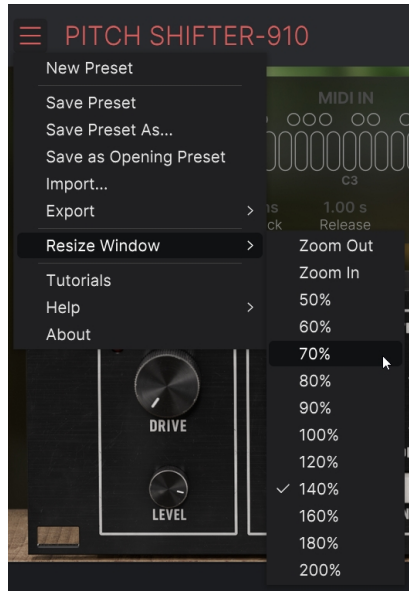
このコマンドを使用すると、プリセットファイルをインポート（読み込み）することができます。インポートできるのは、単体（1個）プリセット、またはプリセットの1バンク全体のどちらかです。このコマンドは、Pitch SHIFTER-910 を別のコンピュータにインストールする際、ユーザープリセットを新しいマシンに移行したい場合や、他のユーザーから送られてきたプリセットを使用するときに便利です。

4.1.6. Export

プリセットのエクスポート（ファイル書き出し）には、プリセット単体またはプリセットバンク全体の2種類があります。

- **Export Preset**：単体プリセットをエクスポートします。1つのプリセットを他のユーザーとシェアしたいときに便利です。このオプションを選択すると、保存画面が開いてデフォルトのファイル保存先が表示されますが、必要に応じて別の場所にフォルダを作成することもできます。保存したプリセットは、Import Preset メニューでインポートできます。
- **Export Bank**：このオプションを使用すると、Pitch SHIFTER-910 の1バンク全体のプリセットを1つのファイルとしてエクスポートします。プリセットのバックアップを取る時や、複数のプリセットをまとめてシェアしたいときに便利です。保存したバンクは、Import Preset メニューでインポートできます。

4.1.7. Resize

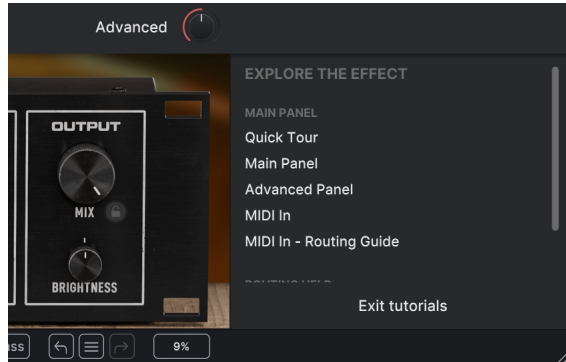


Pitch SHIFTER-910 の画面は 50% - 200% の範囲で画質が変わることなく拡大/縮小ができます。ラップトップなどスクリーンが小さめの場合は画面を縮小して Pitch SHIFTER-910 だけでスクリーンを占拠させないようにすることもできます。大型スクリーンやセカンドモニターでご使用の場合は、拡大表示の見やすい状態で操作できます。ズームレベルに各種コントロールの動作は同じですが、拡大率を上げることで細かなコントロール類が見やすくなります。

i ! Pitch SHIFTER-910 を使用しているときは、キーボードショートカット (Windows: Ctrl - / Ctrl +, macOS: Cmd - / Cmd +) で画面サイズを1ステップずつ縮小/拡大ができます。画面の右下コーナー部分 ([ローツールバー](#)) [p.40] をドラッグすることでも、画面サイズを1ステップずつ変更できます。なお、一部の DAW ではこれと同じキーコマンドを DAW の画面ズームに採用しているものもあり、その場合は DAW での動作が優先されますのでご注意ください。

4.1.8. Tutorials

Pitch SHIFTER-910 には各種機能をご紹介するチュートリアルがあります。メインメニューの「Tutorials」をクリックすると、チュートリアルチャプターリストが画面右側に開きます。



チャプターを選択するとチュートリアル用のプリセットがロードされ、選択したチャプターに沿った Pitch SHIFTER-910 の機能をご紹介します。また、チュートリアルの進行に合わせてご紹介するパラメーター等がハイライト表示に変わります。



画面右上にある「X」をクリックすると、そのチャプターが終了し、チャプターリスト最下部にある「Exit Tutorials」をクリックするとチャプターリスト全体が閉じます。

！プリセットをエディットしていた場合は、チュートリアルを開く前にプリセットを必ず保存してください。これは、チュートリアル用のプリセットの内容が現在開いているプリセットに上書きされるためです。保存はこまめに行いましょう！

4.1.9. Help

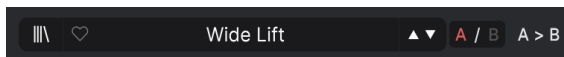
Pitch SHIFTER-910 のマニュアルや Arturia ウェブサイトの FAQ (よくある質問) へのリンクが表示されます。これらのリンクを使用する場合は、インターネット接続が必要となります。

4.1.10. About

クリックすると Pitch SHIFTER-910 のバージョン番号と開発者リストが表示されます。アバウト画面以外の場所をクリックすると閉じます。

4.2. プリセットを選択する

Pitch SHIFTER-910 は、素晴らしいサウンドのファクトリープリセットを豊富に内蔵しています。また、アップツールバー中央にあるプリセットブラウザーのボタン類から、プリセットを選択する3種類の方法があります。



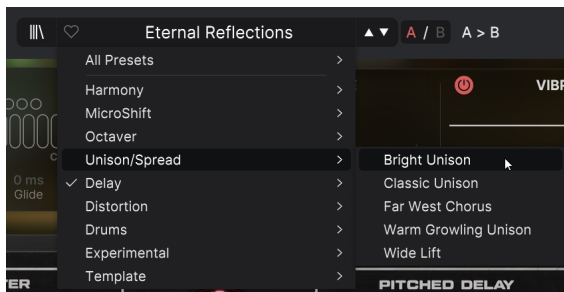
4.2.1. プリセットブラウザー・ボタン

本棚の本のように見える縦4本線のアイコン (≡≡≡) をクリックすると、プリセットブラウザーが開閉します。詳しくは、[Chapter 8 「Working with Presets \[p.42\]」](#) でご紹介します。

4.2.2. プリセット名表示エリア

プリセット名をクリックするとドロップダウンメニューが開き、プリセットのリストが表示されます。その中にあるプリセット名をクリックするとそれがロードされ、リスト以外の場所をクリックするとリストが閉じます。リストの左側には各プリセットの特徴を表すカテゴリーやサブグループ ([タイプ \[p.45\]](#)) で、プリセットブラウザー自体を開くことなくプリセットをカテゴリーごとにチェックできます。

 ! プリセットをエディットすると、プリセット名の右側にアスタリスク (*) が表示され、そのプリセットがエディット中で未保存の状態であることを示します。



プリセットブラウザーで検索フィルターを設定していても、プリセット名表示エリアからメニューを開いた場合は、フィルター設定が無視され、メニューで選択したタイプに該当する全プリセットが表示されます。

4.2.3. 上下の矢印アイコン

プリセットを選択する第3の方法が、上下の矢印アイコン (▲/▼) です。これをクリックすると、検索フィルターで絞り込まれたプリセットのリストからプリセットを1つずつ順番に選択できます。これは、プリセット名表示エリアをクリックしてメニューを開いてプリセットを選択することと同じことなのですが、この方法であれば1クリックでそれを行えます。

4.2.4. Like ボタン

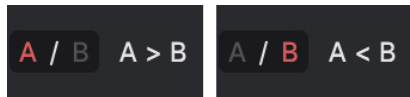
プリセットブラウザー・ボタン (|||) とプリセット名表示エリアの間には、ハートのアイコンがあります。これが Like ボタンで、これをクリックすると現在選択しているプリセットを「お気に入り」に登録し、後で見つけやすくなります。お気に入りに登録したプリセットは、プリセットブラウザーで簡単に見つけ出したり並べ替えたりすることができます。

プリセットの詳細につきましては、チャプター8「[Working with Presets \[p.42\]](#)」でご紹介します。

4.3. A/B 比較ボタン

上下の矢印アイコンの右には、**A/B セレクト**と**A/B コピー**のボタンがあります。1つのプリセットには、各パラメーターの値が異なる2つのセッティング(AとB)が入っています。A/B セレクトボタンをクリックすることで、2つのセッティングを切り替えることができます(選択しているほうが赤いハイライト表示になります)。A/B コピーボタンは、現在選択しているセッティングの内容をもう一方にコピーするときに使用します。これにより、プリセットのバリエーションを何度も作成することなく、エディット内容を素早く比較することができます。

A/B 比較機能は、気に入ったサウンドになるまでエディットを行い、その途中で作業中の設定をスロットBにコピーしておくことで便利です。その後もエディットを続け、スロットBに切り替えることで、元のセッティングに戻すことができます。A/B セレクトボタンをもう一度クリックすると、元のセッティングと新しいセッティングを交互に切り替えて比較することができます。



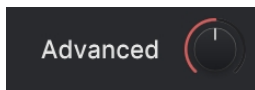
左：スロットAを選択した状態。コピーボタンはA>Bと表示されます。右：スロットBを選択した状態。コピーボタンはA<Bと表示されます。

また、両方のスロットに別々のプリセットを読み込み、プリセットブラウザーで再度検索することなく切り替えることもできます。スロットAとBに読み込んだ内容は、Pitch SHIFTER-910をアンロード(DAWから取り外す)するか、DAWを閉じるまで保持されます。次回Pitch SHIFTER-910を開いたとき、スロットBは空の状態になります。

i ! A/B スロットに保存されたパラメーターは一時的なものであり、Pitch SHIFTER-910をアンロードしたりDAWを終了したりする前に保存しないと、その内容は失われてしまいます。スロットAとBの両方のエディット内容呼び出したい場合は、それぞれ別々のプリセットとして保存しておく必要があります。

4.4. Advanced ボタン

Advanced ボタンをクリックすると、MIDI インプット、ボイスモード、ビブラートの各セクションが入っているアドバンスドパネルが開きます。詳しくは、チャプター6「[Advanced Controls \[p.24\]](#)」をご覧ください。



4.5. 出力レベルノブ

Pitch SHIFTER-910 からの出力レベルを調整するという極めてシンプルなノブです。ノブの向きが時計の12時の位置で 0dB になり、このノブで -24dB から +24dB の範囲で出力レベルを調整できます。

5. MAIN CONTROLS

Pitch SHIFTER-910 は、ラックマウント機器に通常備わっているようなノブやスイッチを配置したパネルを再現したレイアウトになっています。



#	エリア	内容
1.	Input [p.18]	入力レベルの調整と入力音の飽和感/歪みを調整します。
2.	Shifter [p.19]	入力音のピッチとフォルマントを別々に、またはリンクさせて上下1オクターブの範囲で調整します。設定によっては Formant ノブが動作しなくなることがあります。エフェクト音に信号の劣化を加えるか否かを選択するモードスイッチが2つあります。
3.	ディスプレイ	現在のピッチ設定をアーチ状のメーターと、半音と10セント単位 (小数点以下) の数値表示で視覚的に表示します。MIDI IN モードでは数値表示が「MIDI」という文字に置き換えられますが、メーターには引き続きピッチ設定が表示されます。
4.	Delay / Pitched Delay [p.21]	セクション名をクリックすると「Delay」と「Pitched Delay」のどちらかに切り替わります。ディレイタイムとフィードバックに加え、ローパスとハイパス EQ があり、ピッチディレイではなく、通常のディレイを選択しているときは、Mix ノブが表示されます。
5.	Output [p.23]	全体的な出力レベルを調整します。Brightness ノブはティルト EQ で、音の明るさを調整します。

5.1. Input

インプットセクションでは、ピッチシフトのアルゴリズムに入る前のオーディオ信号のレベルを調整します。



- **Level** : Level ノブで入力ゲインを -70dB から +12dB の範囲で調整します。ノブの向きを時計の4時付近にすると、元と同じ信号レベルになります。
- **Drive** : 入力音にサチュレーション（飽和）させて、倍音を豊かにします。これを使用して入力音に色付けをしたり、トーンのアクセントを加えることができますが、ノブを上げすぎるとクリップLED が点灯して信号がクリップしますのでご注意ください。

5.2. Shifter

Pitch SHIFTER-910 の心臓部が、このシフターセクションです。ここでピッチとフォルマントを直接調整することができます。



このプラグインでは、ピッチシフトとフォルマントシフトがどのように関連しているかを理解することが重要です。ピッチシフトとは、音の高低、つまり音がどれほど高く、あるいは低く聴こえるかという変化を指します。一方、フォルマントシフトとは、音の高さを変えることなく、音色を決定づけるレゾナントピークを変化させることで、音の質感を変えることを指します。ピッチシフトとの区別を明確にするため、フォルマントシフトは「フォルマントシェイピング」と呼ぶこともよくあります。

通常、ピッチを変えるとフォルマントもそれに伴って変化し、その結果、不自然で元の音とはかけ離れた音になってしまうことがあります。ピッチを変えつつもフォルマントを元の形のまま維持できれば、遥かに自然な音にすることができます。

Pitch SHIFTER-910 では、ピッチとフォルマントを完全に独立して調整することができます。そのため、音の高さを変えずに音色を根本的に変えたり、音色本来の特性を損なうことなくピッチをシフトさせたりすることが可能です。さらに重要と思われるポイントとして、声や楽器のピッチをシフトさせても、その音特有の識別可能な特性を維持することができます。

i フォルマントは、音の特徴を決定づける要素です。ボーカルにおいては、母音の区別、音の響き、性別、そして声の認識にまで影響を及ぼします。その他の音の場合、フォルマントを操作することで、声のような質感を加えたり、単に音の明るさを調整したりすることができます。

i オリジナルハードウェアではフォルマントを考慮していなかったため、ピッチシフトを行うとすぐに「チップマンク効果」のような音になってしまっていました。そうした変化も含めてオリジナルハードウェアと同じ体験が望みの場合は、フォルマントをピッチにリンクさせるか、完全に無効にすることも可能です。

5.2.1. Pitch

ピッチシフト量を上下12半音 (1オクターブ) の範囲で設定します。このノブは、半音ステップではなく、連続的にピッチシフト量が変化します。ピッチシフト量は、ディスプレイに10セント単位で数値で表示され、半音とセント単位のシフト量がノブ付近にポップアップ表示されます。

5.2.2. Formant

フォルマントのシフト量を上下12半音（1オクターブ）の範囲で設定します。このノブも、Pitch ノブと動作を合わせるため、半音ステップではなく連続的に変化します。

5.2.3. Formant Link

ピッチとフォルマントノブを連動させ、同時に動くようにします。ノブの位置にずれがある場合、どちらかのノブが最大値または最小値に達するまで、その関係は維持されます。同じ値で連動させると、ピッチとフォルマントが常に同じ量だけ変化するという、オリジナルハードウェアの動作を再現できます。

5.2.4. Formant Bypass

フォルマント処理を完全に無効にします。これにより、ピッチとフォルマントを同じ値にリンクした場合と同じ効果となり、オリジナルハードウェアの動作を再現します。

5.2.5. Mode

ピッチシフトのアルゴリズムを次の2種類から選択できます：

- **Vintage 10**：オリジナルハードウェアのアルゴリズムと信号経路を忠実に再現したエミュレーションです。
- **Vintage 24**：オリジナルハードウェアのアルゴリズムのみを再現し、信号の劣化が少ない、よりクリーンな音質です。



♪ ピッチとフォルマントを同じ値でリンクさせ、モードを Vintage 10 に設定すると、オリジナルハードウェアと同じクラシックなサウンドになります。



♪ ピッチをシフトしてもより自然なトーンにしたいときは、フォルマントの値を 0 にすることで入力音のキャラクターを維持できます。また、モードを Vintage 24 にすることで音質がよりクリアになります。

5.3. Delay / Pitched Delay

このデジタルディレイは、オリジナルハードウェアの一部で、いわばマルチエフェクト・ユニットへと変貌させていました。その特筆すべき点は、ディレイの出力がピッチシフターにフィードバックされる仕組みにあり、これによりディレイ音が繰り返すたびにピッチがさらに変化していく効果が得られました。フィードバックが十分な量であれば、1つの音から音階全体を奏でることも可能でした。また、ピッチシフターをバイパスして、純粋なディレイとして動作させるためのボタンが備わっていることもよくありました。

Pitch SHIFTER-910 ではこれらのアイデアを採り入れ、それをディレイ (Delay) とピッチディレイ (Pitched Delay) として具現化しました。この2つは別々の処理ではなく、単に信号のルーティングが異なるだけです。ディレイはプラグインから直接出力され、リピート音と元の信号のバランスを調整するための Mix ノブが備わっています。ピッチディレイは、タップ信号 (ディレイ音) をシフターセクションに戻して、さらに処理を行います。この2つを切り替えるには、「Delay」または「Pitched Delay」(現在使用しているほう) のテキストをクリックし、ポップアップメニューから選択します。



！ディレイとピッチディレイを切り替えても、パラメーター構成は基本的には変わらず、信号経路のみが変わります。

5.3.1. Rate

Rate ノブでディレイタイムを 24ms - 2s の範囲で調整します。ノブの横にある音符ボタンが点灯しているときは、ディレイタイムが DAW のテンポに同期します。同期モードを含めたディレイタイムには次の4つのオプションがあります：

- *Seconds* : ディレイタイムはミリセカンド (ミリ秒) 単位になります。
- *Sync Straight* : DAW のテンポに対する音符単位で設定できます。
- *Sync Triplet* : DAW のテンポに対する3連符のタイミングから選択できます。
- *Sync Dotted* : DAW のテンポに対する付点音符のタイミングから選択できます。

5.3.2. Feedback

ディレイ音をディレイの入力に戻す量、つまり、ディレイのリピート量を調整します。ノブを右へ回すほどリピート量が多くなり、フィードバック量が 100% になると自己発振が起こり、絶えず繰り返し、次第に崩壊していくような音の塊が形成されることがよくあります。フィードバックを 0% にするとディレイがオフになります。なお、ディレイをバイパスする機能はありません。

5.3.3. EQ LP/HP

HP (ハイパス)、LP (ローパス) の各ノブは、それぞれのフィルターのカットオフ周波数を 20Hz - 20kHz の範囲で調整します。この2つのフィルターはディレイのフィードバック・ループ内にありますので、ディレイ音がリビートするたびにフィルターがかかっています。この2つを使用することで、リビート音の高域と低域を別々に調整でき、ディレイ音がミックスの中で目立ちすぎたり、全体を圧迫したりするのを防ぐことができます。

5.3.4. Offset (ステレオトラック使用時のみ)

左右チャンネルのディレイタイムにわずかなズレを設け、ステレオイメージの広がった効果を作ります。この機能はステレオトラックで使用したときにのみ有効で、モノトラックで Pitch SHIFTER-910 を使用した場合、このノブは表示されません。

5.3.5. Mix (ディレイのみ)

ディレイセクションに入力した音と、ディレイ音の音量バランスを調整します。ピッチディレイ (Pitched Delay) モードでは、ディレイ音はシフターセクションに再入力 (フィードバック) され、エフェクト音の一部になりますので、このノブは表示されません。Mix ノブはその後のアウトプットセクションにもあります。



非常に荒々しくて音質劣化があり、個性的なディレイが欲しいものの、ピッチシフトは要らないという場合は、シフターセクションの設定をゼロのままにし、ピッチディレイモードを使用してください。ディレイのリビート音はシフターセクションのアルゴリズムを経由し、ビンテージ回路による処理が施されますが、ピッチやフォルマントの変化は一切生じません。

5.4. Output

アウトプットセクションには、Pitch SHIFTER-910 に入力する前の、エフェクトがかかっていない音（ドライ音）と、エフェクト音をミックスする Mix ノブなどがあります。入力音にハーモニーを付けたいときは、このノブで元の音とピッチシフトしたハーモニー音との音量バランスを調整できます。



5.4.1. Mix

ドライ音と Pitch SHIFTER-910 で加工した音 (エフェクト音) の音量バランスを調整します。

5.4.2. Mix Lock

小さなカギのアイコンは、Mix ノブの状態を固定するためのボタンで、これをオンにすると、プリセットを切り替えても Mix ノブの状態は変化しません。オフの場合は、プリセットを切り替えると、そのプリセットに設定されているミックスバランスに切り替わります。

5.4.3. Brightness

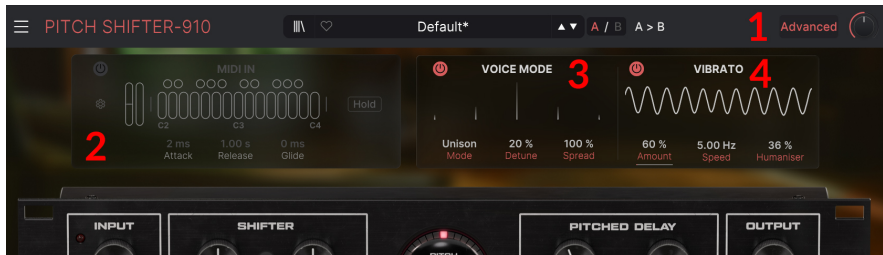
エフェクト音の明るさを調整します。内部的には、このノブはビンテージスタイルのティルト EQ になっており、ノブを回す方向によって音が明るくなったり暗くなったりします。



! Brightness ノブはエフェクト音 (Pitch SHIFTER-910 で加工した音) にのみ適用され、ドライ音やドライ音とミックスした信号には適用されません。

6. ADVANCED CONTROLS

ラックの奥にスッキリと収められているのは、オリジナルハードウェアにはなかった、モジュレーション、ボイスモード、ピブラートといった、音作りのさらなる可能性を広げるアドバンストパネルの機能の数々です。

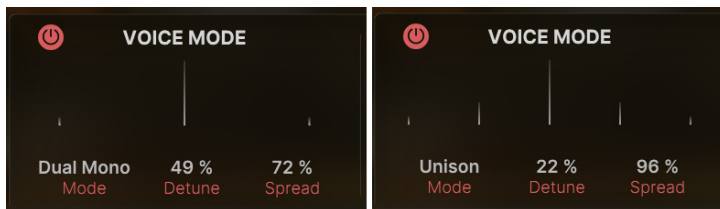


#	エリア	内容
1.	Advanced ボタン	アドバンストパネルを開閉します。
2.	MIDI IN [p.26]	ピッチ、レベル、モジュレーション機能を MIDI でコントロールできるようになります。
3.	Voice Mode [p.24]	ピッチシフターを2台使用して作ることができるユニゾンやデュアルモノモードのエミュレーションです。
4.	Vibrato [p.25]	ピッチモジュレーション (ピブラート) です。

6.1. Voice Mode

豊かなダブリングやステレオ効果を生み出すためには、2台のピッチシフターを並列に接続するのが一般的でした。プラグインの面白いところは、好きなだけインスタンスをロードして、そのサウンドを自由に試せる点にあります。Arturia Pitch SHIFTER-910 は、複数の機器を併用する際のメリットのいくつかを1つのプラグインに凝縮しており、2つのパネルを操作する手間を省くことができます。

ボイスモードでは、**Dual Mono** と **Unison** の2つの設定を切り替えることができます。



- **Dual Mono**：2台のハードウェアを並列に接続し、それぞれのピッチシフト量をわずかにずらして出力を左右に定位させ、広がりや動きのあるステレオイメージを作り出す、往年の手法を再現します。
- **Unison**：第3のボイスを追加して、デチューンのかかったアンサンブル効果を作り出します。

どちらのモードもパラメーター構成は同じです。

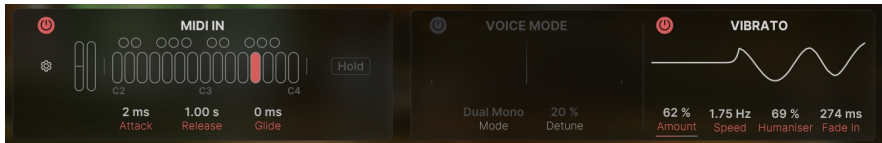
- **Voice Mode Bypass** : ボイスモードのオン/オフを切り替える電源ボタンです。
- **Mode** : Dual Mono (2ボイス) と Unison (3ボイス) を切り替えます。
- **Detune** : 追加ボイスのチューニングのオフセット量を調整します。
- **Spread** (ステレオ動作時のみ) : ステレオの左右間の広がり調整します。モノトラックで使用している場合は、このパラメーターは表示されません。

6.2. Vibrato

オリジナルハードウェアでは、ビブラートはあくまで副産物的な効果に過ぎませんでした。これは、初期のデジタル技術とクロックの不安定さが原因によるものでした。とはいえ、CV インプット端子は装備されており、LFO を使用してピッチを揺らす手段としても活用できました。Pitch SHIFTER-910 では、ビブラートはより意図的に設計されていますが、その不安定な特性を楽しみたい場合には、十分にその要素を活用することもできます。



- **Vibrato On/Off** : ビブラートのオン/オフを切り替える電源ボタンです。
- **Amount** : ピッチ変調 (ビブラート) の深さを設定します。
- **Speed** : ビブラートの速さを 0.01Hz - 10Hz の範囲で調整します。
- **Humanizer** : ビブラートにランダム要素を加え、より自然でわずかに不安定な感じを出します。



- **Fade** (MIDI モードのみ) : MIDI IN を使用して Pitch SHIFTER-910 をコントロールし、ピッチを制御する場合 (詳細は後述します)、Vibrato パネルに Fade パラメーターが表示されます。これにより、ビブラートが徐々にかかり、設定したビブラートの深さに達するまで時間をかけられるようになります。これにより、ボーカルや他の楽器でビブラートをかけるのに近い効果を作り出せます。

6.3. MIDI IN

オリジナルハードウェアでは、キーボードを使用して最大3台のピッチをコントロールすることができ、ピッチシフターを演奏可能で (複数台使用時には) ポリフォニックな楽器にすることができました。Pitch SHIFTER-910 では、MIDI キーボードを使用して同様のコントロールに加え、さらに多くの機能を利用することができます。音程の指定だけでなく、エンベロープ、グライド (ポルタメント)、モジュレーション機能を備えており、これらでビブラートやステレオスプレッドをコントロールすることが可能です。ハーモニーに関しては、Pitch SHIFTER-910 は最大4ボイスまで対応しており、1つのノートからコードやコーラスアレンジを生成することができます。

MIDI IN は、オリジナルハードウェアと同様、ピッチを12半音分 (1オクターブ分) の範囲でシフトさせることができます。上下1オクターブの合計2オクターブの範囲外のノートやピッチベンドは無視され、音は出ません。MIDI IN がオンの場合、シフターセクションの Pitch ノブは機能しなくなります。これは、MIDI がその役割を引き継いでいるためです。Formant ノブ、Mode スイッチは引き続き機能しますが、入力する MIDI ノートデータに Formant をリンクさせることはできません。

i ! 2オクターブの範囲外の音を演奏した場合、バーチャルキーボードの両側に赤い縦線が表示され、音程が高過ぎている、または低過ぎていることを示します。



#	エリア	内容
1.	MIDI IN	MIDI IN パネルには入力したノートの表示され、エンベロープやグライドのパラメーターのほか、モジュレーションやレベルの設定が行えます。
2.	ディスプレイ	MIDI IN がオンの場合、ディスプレイには「MIDI」と表示され、入力した MIDI ノートがアーチ状のメーターに表示されます。
3.	MIDI Mode [p.30]	MIDI ノートのトリガー方式、またはポリフォニック動作を選択します。

i ! MIDI IN がオンの場合、Pitch SHIFTER-910 から音が出なくなることがありますが、これは正常な動作です。その理由につきましては、以下をお読みください。

6.3.1. MIDI コントロールの動作について

MIDI IN をオンにすると、2つの重要な動作が行われます。まず、Pitch パラメーターが入力する MIDI ノートで制御されるようになります。次に、Pitch SHIFTER-910 で処理された信号の出力に、入力する MIDI ノートでトリガーされるエンベロープが適用されます。つまり、Pitch SHIFTER-910 の MIDI IN に MIDI ノートを送信しない (MIDI キーボードを演奏しない) 限り、音は出ません。

i ! ここでは、アウトプットセクションの Mix ノブが 100% ウェットに設定されていることを前提としています。Mix ノブの値を下げてドライ音が出るようにすると、エフェクト音にのみエンベロープが適用されるため、ドライ音は聴こえるようになります。

つまり、MIDI ノートデータを送信する (MIDI キーボードを弾く) と、エンベロープが開き、オーディオ信号がプラグインを通り、MIDI ノートの値に応じてピッチがシフトされ、その音がアウトプットから聴こえてきます。MIDI ノートデータが音を生成していると思われがちですが、実際にはそうではなく、MIDI ノートデータは単にピッチのシフト量を指定する役割を果たしているに過ぎません。音は、Pitch SHIFTER-910 にルーティングされている信号 (オーディオトラックの信号) から生成されています。

例えば、ボーカルトラックに Pitch SHIFTER-910 を配置して DAW の再生をスタートします。ピッチシフトやディレイの設定をすべて手動で調整し、ボーカルトラックにかかるエフェクトを確認できます。MIDI IN をオンにすると (アウトプットセクションの Mix ノブが 100% の場合)、プラグインからの音は出ません。MIDI キーボードを弾いたときにのみ、エフェクトがかかったボーカルトラックの音が聴こえるようになります。ディレイやフォルマントの各パラメーターによる処理はすべてそのまま適用されますが、ピッチシフトは MIDI キーボードで弾いた音程によって決定されるようになります。

i ! MIDI IN が正常に機能するためには、DAW 側で MIDI ノートを Pitch SHIFTER-910 にルーティングする必要があります。これには、MIDI キーボードからのノートや、別のトラックからのシーケンスされた MIDI ノートが含まれます。設定方法がご不明な場合は、後述の [MIDI IN ルーティングガイド \[p.31\]](#) をご覧ください。

i ! Ableton Live、Cubase、FL Studio、Logic Pro など多くの DAW では、MIDI ルーティングの機能がプラグインに直接組み込まれています。MIDI IN パネルの Help ボタンをクリックすると、画面右側にチュートリアルパネルが開き、ご使用の DAW に基づいた設定手順をご案内します。上記4つ以外の DAW をお使いの場合、“Unknown Host”と表示され、お使いの DAW のマニュアルをご覧になるよう案内します。ただし、後述の [MIDI IN ルーティングガイド \[p.31\]](#) の内容は、どの DAW をご使用でもご参考になります。

6.3.2. MIDI IN パネル

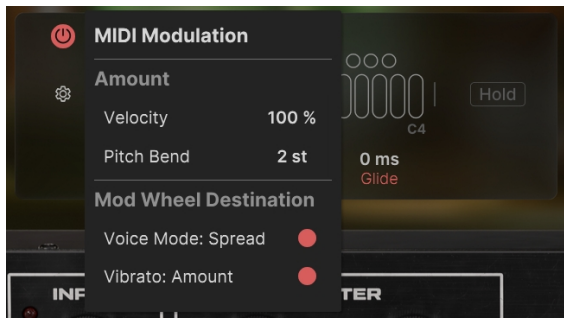


Advanced ボタンをクリックしてアドバンストパネルを開くと、MIDI IN の次のようなパラメーターが表示されます：

- **MIDI IN On/Off**：MIDI IN 機能のオン/オフを切り替える電源ボタンです。
- **Settings** (ギアアイコン)：MIDI モジュレーション機能のポップアップ画面を開きます。
- **バーチャルキーボード**：入力した MIDI ノートを表示します。バーチャルキーボードをクリックすると、そのノートデータをトリガーします。キーボードの左側にはバーチャル・ピッチベンドとモジュレーションホイールもあります。また、キーボードの両端には有効な音域以外の MIDI ノートを弾いたときに点灯するインジケーター (縦線) があります。
- **Attack** (エンベロープ)：MIDI ノートを弾いた瞬間から最大レベルに達するまでの時間を、2ms - 10s の範囲で設定します。
- **Release** (エンベロープ)：MIDI キーボードから手を放した瞬間からレベルがゼロになるまでの時間を、5ms - 10s の範囲で設定します。
- **Glide**：先に弾いた音程から次に弾く音程へ移り変わるまでの時間を、0ms - 5s の範囲で設定します。
- **Hold**：オンの場合、新たに弾く MIDI ノートは、選択した MIDI モードの発音数の上限に達するまで持続します。
- **Help**：DAW ごとの MIDI ルーティング方法を解説するチュートリアルが開きます。

6.3.2.1. Settings

MIDI モジュレーションの設定は、MIDI IN パネルにある小さなギアアイコンをクリックすると開きます。

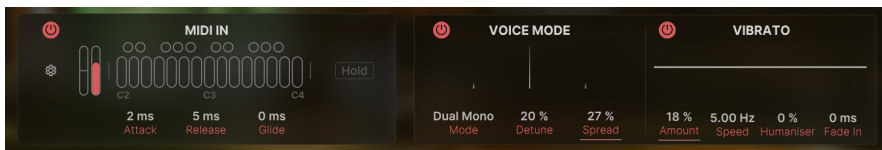


6.3.2.2. Amount

- **Velocity**：入力する MIDI ノートのベロシティ値で、エンベロープの振幅が変化する幅を調整します。0% の場合、MIDI ノートのベロシティ値に関係なく、振幅は常に最大レベルになります。100% の場合は、MIDI ノートのベロシティ値がエンベロープの振幅を直接コントロールします。
- **Pitch Bend**：ピッチベンドレンジを 0 - 12半音 (1オクターブ) の範囲で設定します。

6.3.2.3. Mod Wheel Destination

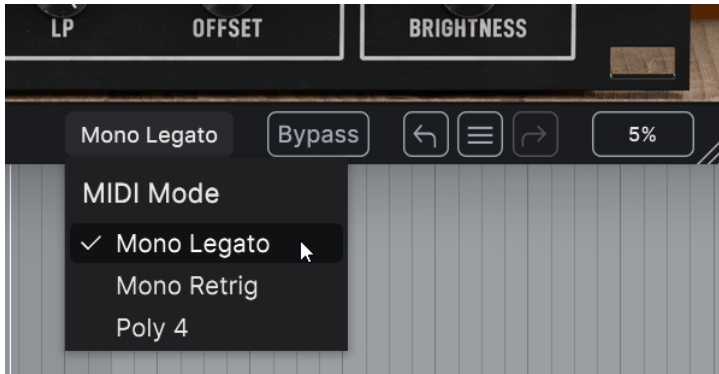
- **Voice Mode: Spread** (ステレオ動作時のみ)：ボイスモードのステレオスプレッドを Mod ホイールでコントロールするかどうかを設定します。Pitch SHIFTER-910 をモノトラックで使用している場合、このパラメーターは表示されません。
- **Vibrato Amount**：ビブラートの深さを Mod ホイールでコントロールするかどうかを設定します。



Mod Wheel Destination (Mod ホイールによるコントロール) がオンの場合、ボイスモードのスプレッド (Spread) とビブラートのアmount (Amount) に下線が表示されます。Mod ホイールからの信号は、それぞれのパラメーターですでに設定済みの値に上乗せされるため、モジュレーションのオフセットや範囲を調整することができます。ただし、それぞれのパラメーターがすでに 100% に設定されている場合は、Mod ホイールを操作しても何も変化しません。

6.3.3. MIDI Mode

Pitch SHIFTER-910 の画面最下部、[ロワーツールバー \[p.40\]](#)の一部に、MIDI トリガーとポリフォニックモードを選択するボタンが隠されています。



MIDI IN 機能は、モノレガート (Mono Legato)、モノリトリガー (Mono Retrigger)、ポリ4 (Poly 4) のいずれかのモードで動作させることができます。

- **Mono Legato** : モノフォニック動作です。キーボードをレガート奏法で弾くと、前の音のエンベロープをそのまま引き継ぎ、アタックから再スタートしません。
- **Mono Retrigger** : こちらもモノフォニック動作です。キーボードをレガート奏法で弾いても、エンベロープがアタックから再スタート (リトリガー) します。
- **Poly 4** : 4ボイスのポリフォニック動作で、4ボイス分のピッチシフトとエンベロープが別々に動作します。このモードを選択した場合、ボイスモードはオフになります。



♪ Poly 4 モードで Glide (グライド) を極端に高い値に設定すると、まるで異世界のようなピッチの動きになります。

6.4. MIDI IN Routing Guide - ルーティングガイド

MIDI IN 機能を使用すると、MIDI ノートでエフェクトのピッチや振幅をコントロールできます。MIDI ノートは MIDI キーボードや DAW から送信できますが、MIDI IN が機能するためには、Pitch SHIFTER-910 に MIDI をルーティング (接続) する必要があります。具体的なルーティング方法は、お使いの DAW によって異なります。

ほとんどの DAW では、2つのトラックを要します。1つは Pitch SHIFTER-910 でエフェクト処理するオーディオを再生するトラック、もう1つは Pitch SHIFTER-910 に MIDI 信号を送信するトラックです。例えば、Cubase、Ableton Live、FL Studio では、MIDI トラックを作成し、その出力を Pitch SHIFTER-910 に直接ルーティングします。一方、Logic Pro では仕組みが異なり、Pitch SHIFTER-910 のようなエフェクトプラグインはインストゥルメント・トラックに配置する必要があります、オーディオ信号はプラグインのサイドチェイン入力を通じてエフェクトに送られます。

手順は DAW によって多少異なりますが、基本的な流れは同じです。

続いて、Ableton Live、Cubase、FL Studio、Logic Pro 向けのルーティング手順を順を追って解説します。これら以外の DAW をお使いの場合は、これらの手順を応用するか、お使いの DAW のマニュアルをご参照になるか、メーカーに問い合わせるサポートを受けてください。



！ 順序が重要です： MIDI 信号をエフェクトに送る前に、必ずエフェクトをロードしてください。

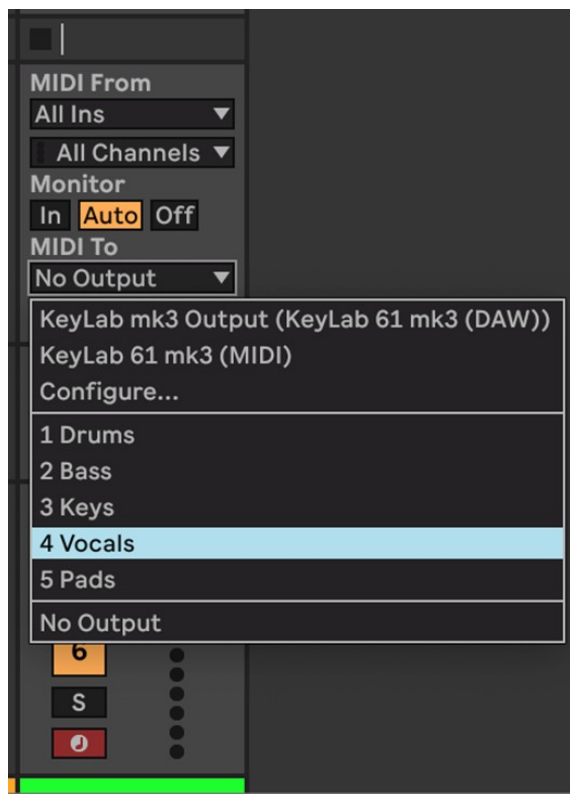


！ ライブコントロール： MIDI コントローラーを使用してエフェクトをリアルタイムに制御するには、MIDI を処理するトラックをアーム状態 (録音待機状態) にするか、モニタリングをオンにして、MIDI ノートが Pitch SHIFTER-910 に届くようにする必要があります。

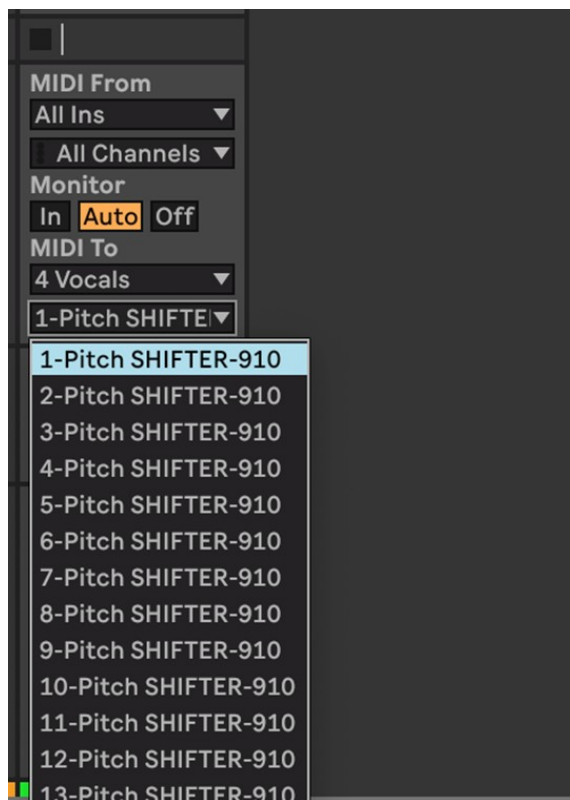
6.4.1. Ableton Live での設定手順

Ableton Live で Pitch SHIFTER-910 に MIDI をルーティングする手順は、次の通りです：

1. エフェクトの MIDI In をオンにする：Pitch SHIFTER-910 のアドバンスパネルを開き、MIDI IN をオンにします。
2. MIDI トラックを作成する：このトラックから MIDI 信号を Pitch SHIFTER-910 に送ります。
3. トラックの出力を設定する：MIDI トラックの「MIDI To」メニューから、Pitch SHIFTER-910 を使用しているトラックを選択します (下図の例では「4 Vocals」)。



4. 出力デバイス/チャンネルを選択する：「MIDI To」の2番目のメニューを開き、リストから「1-Pitch SHIFTER-910」を選択します。



これで MIDIトラックから Pitch SHIFTER-910 へ MIDI 信号が送信されます。

i **♪ ライブコントロール**：MIDI コントローラーからエフェクトをリアルタイムで制御するには、MIDI トラックを選択したままにするか、手動でアーム状態 (録音待機状態) または録音を開始してください。

i **♪ トラックの出力オプションが表示されない**：Ableton Live では、トラックの In/Out セクションを非表示にすることができます。これを表示するには、メニューから「表示」→「ミキサーコントロール」と進み、「入力/出力」をオンにしてください。

i **♪ 複数のデバイス**：ターゲットにするトラック上の MIDI 入力に対応しているすべてのエフェクトが、デバイス一覧に表示されます。



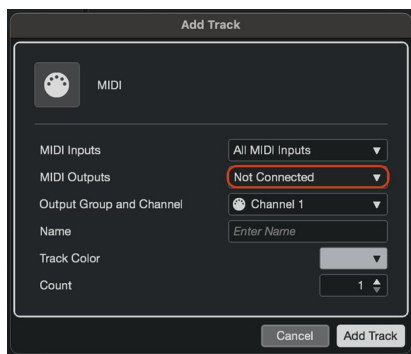
♪ **16のデバイスがある理由**：各デバイスの前にある数字は、その MIDI チャンネルを表しています。Pitch SHIFTER-910 はすべての MIDI チャンネルに対応していますので、16のチャンネルのうちどれを選択しても動作は同じです。

6.4.2. Cubase での設定手順

Cubase で Pitch SHIFTER-910 に MIDI をルーティングする手順は、次の通りです：

1. エフェクトの MIDI In をオンにする：Pitch SHIFTER-910 のアドバンストパネルを開き、MIDI IN をオンにします。
2. MIDI トラックを作り始める：このトラックから Pitch SHIFTER-910 へ MIDI 信号が送信されます。Add Track 画面はまだ閉じないでください。
3. トラックの MIDI 出力先を設定する：MIDI Outputs メニューから、Pitch SHIFTER-910 を選択します。

下図の例では、Pitch SHIFTER-910 は「Vocals」トラックのインサートスロット1にありますので、ここでは「Vocals: Ins. 1. Pitch SHIFTER-910 - MIDI In」を選択します。



4. MIDI トラックの作成を完了する：最後に Add Track をクリックしてトラックの作成を完了します。
- これで MIDI トラックから Pitch SHIFTER-910 へ MIDI 信号が送信されます。



♪ **出力先の変更**：必要に応じて、後からトラックインスペクターのルーティングセクションで MIDI の出力先を変更できます。



♪ **ライブコントロール**：MIDI コントローラーからエフェクトをリアルタイムで制御するには、MIDI トラックを選択したままにするか、そのトラックを手動で録音モードをオンにしてください。

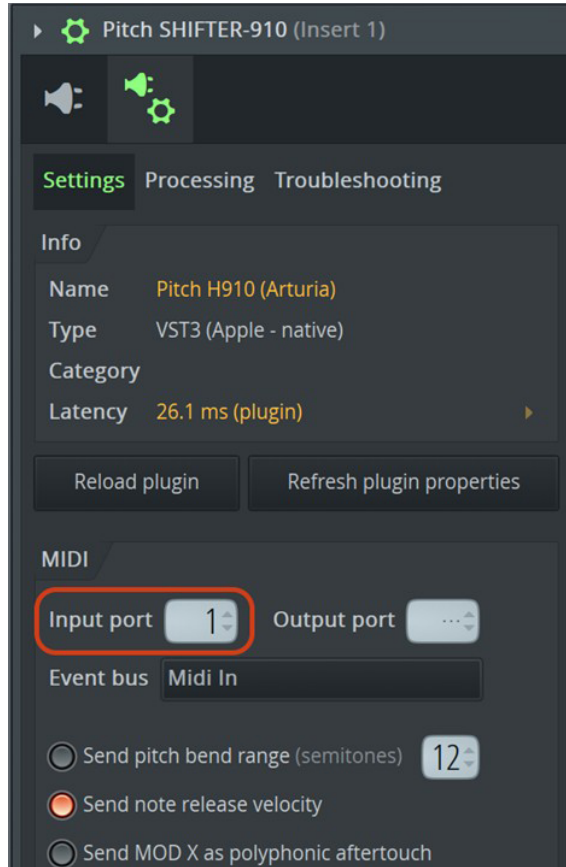


♪ **トラックの種類**：Pitch SHIFTER-910 は、Cubase のオーディオトラックまたはインストゥルメント・トラックのどちらにもロードすることができます。ルーティングの手順はどちらの場合でも同じです。

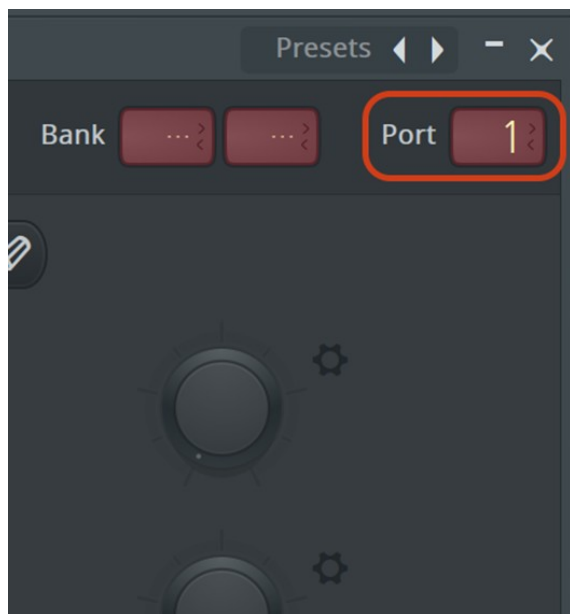
6.4.3. FL Studio での設定手順

FL Studio で Pitch SHIFTER-910 に MIDI をルーティングする手順は、次の通りです：

1. エフェクトの MIDI In をオンにする：Pitch SHIFTER-910 のアドバンストパネルを開き、MIDI IN をオンにします。
2. エフェクトに MIDI 入力ポートを割り当てる：Pitch SHIFTER-910 を使用しているトラックのオプション (ギアアイコン) をクリックして開き、MIDI 入力ポートを 0 - 255 の範囲で設定します。下図の例では、ポート1を選択しています。



3. MIDI アウトトラックを作成する：MIDI アウトジェネレーターを追加し、そのポート番号を Pitch SHIFTER-910 に割り当てたのと同じ番号に設定します (この例では1)。このトラックから Pitch SHIFTER-910 に MIDI 信号を送信します。



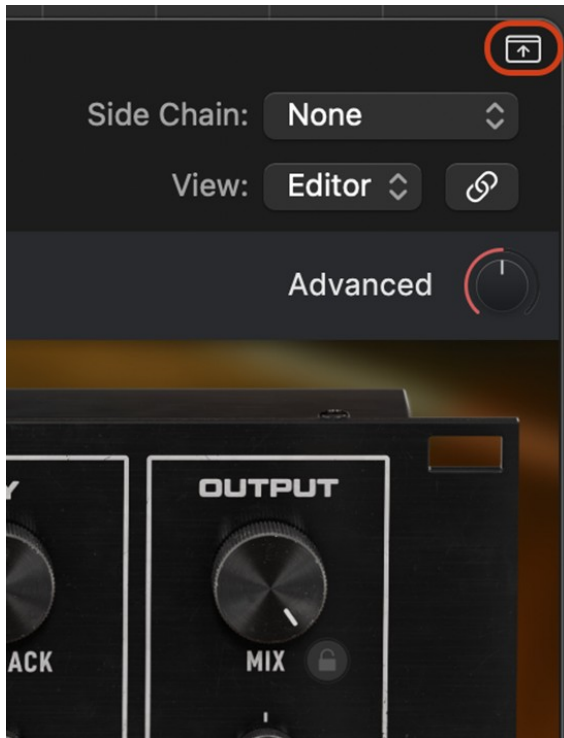
これで MIDI トラックから Pitch SHIFTER-910 へ MIDI 信号が送信されます。

i **♪ ライブコントロール**：MIDI コントローラーから Pitch SHIFTER-910 をリアルタイムで制御するには、MIDI アウトを選択したままにしてください。

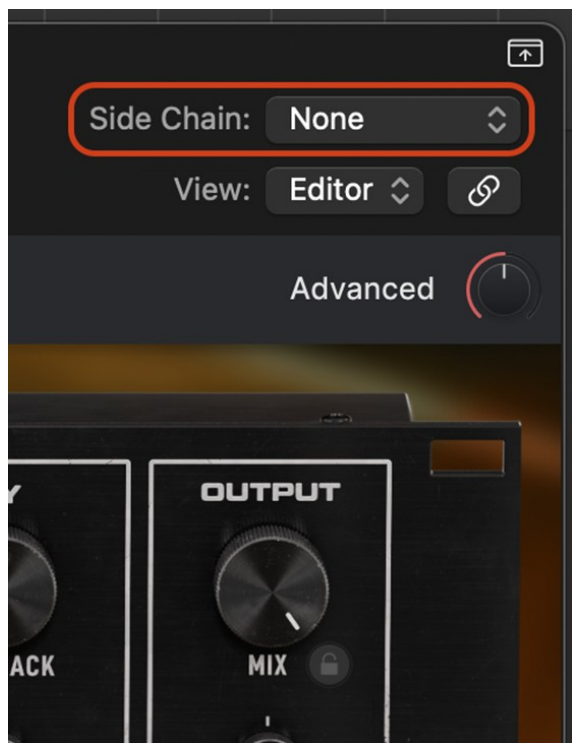
6.4.4. Logic Pro での設定手順

Logic Pro で Pitch SHIFTER-910 に MIDI をルーティングする手順は、次の通りです：

1. エフェクトの状態を保存してバイパスする：まず、Pitch SHIFTER-910 の現在の状態をユーザープリセットとして保存し、次に Bypass ボタンをクリックしてバイパスにします。
2. ソフトウェアインストゥルメント・トラックを作成する：Logic Pro では、エフェクトはインストゥルメント・スロットにロードされた場合にのみ MIDI 信号を受信できるようになりますので、まずソフトウェアインストゥルメント・トラックを作成します。
3. エフェクトを MIDI 制御エフェクトとしてロードする：インストゥルメント・スロットで、リストの一番下にある「AU MIDI 制御エフェクト」セクションから「Pitch SHIFTER-910」をロードします。
4. エフェクトを以前の状態に戻す：手順 1 で保存したユーザープリセットを読み込みます。
5. エフェクトの MIDI In をオンにする：Pitch SHIFTER-910 のアドバンスドパネルを開き、MIDI IN をオンにします。
6. エフェクトにオーディオ信号を送る：ブラフインウィンドウのヘッダを開きます (下図赤丸)。



次に、サイドチェインメニューからエフェクトをかけたいトラックを選択します。



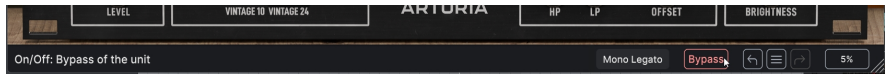
7. 元のトラックをミュートする：ドライ信号とエフェクト音が重なって聴こえないように、オーディオソースのトラックの音量を下げます。

i サイドチェインが表示されない：プラグインウィンドウのヘッダを開いてもサイドチェインの選択項目が表示されない場合は、そのエフェクトがインストゥルメント・スロットに「AU MIDI 制御エフェクト」としてロードされていないことを意味します。

i ライブコントロール：MIDI コントローラーから Pitch SHIFTER-910 をリアルタイムで制御するには、ソフトウェアインストゥルメント・トラックを選択したままにするか、そのトラックを録音待機状態に設定してください。

7. LOWER TOOLBAR

Pitch SHIFTER-910 の機能をご紹介する最後になりますが、画面の最下部に配置されたロワーツールバーにあるユーティリティ機能について触れておきます。他のセクションのような華やかさはありませんが、それでも非常に役立つ機能が入っています。



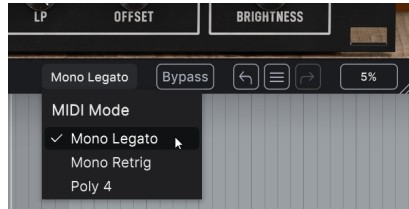
7.1. パラメーター情報エリア

ロワーツールバーの左側には、パラメーター情報エリアがあります。パラメーターにマウスオーバーしたり、ドラッグしてその値を変更したりすると、そのパラメーター名 (とその簡単な説明) がここに表示されます。また、そのパラメーターの現在値は、そのノブやスイッチの近くに表示されます。

！多くの場合、パラメーターにカーソルを重ねるだけで、その機能が何をするものかがすぐにわかるだけの情報が表示されます。そうすれば、チュートリアルに戻らなくても Pitch SHIFTER-910 の機能のほとんど、あるいはすべてを思い出すことができます。

7.2. MIDI Mode

このメニューは、MIDI IN パネルがオンになり、MIDI でピッチシフトをコントロールしているときにのみ表示されます。



MIDI IN は、モノレガート (Mono Legato)、モノリトリガー (Mono Retrig)、ポリ4 (Poly 4) のいずれかのモードで動作します：

- **Mono Legato**：モノフォニック動作です。キーボードをレガート奏法で弾くと、前の音のエンベロープをそのまま引き継ぎ、アタックから再スタートしません。
- **Mono Retrig**：こちらもモノフォニック動作です。キーボードをレガート奏法で弾いても、エンベロープがアタックから再スタート (リトリガー) します。
- **Poly 4**：4ボイスのポリフォニック動作で、4ボイス分のピッチシフトとエンベロープが別々に動作します。このモードを選択した場合、ボイスモードはオフになります。

7.3. Bypass

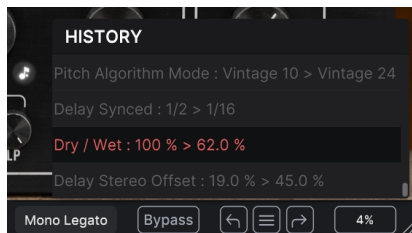
Bypass ボタンで Pitch SHIFTER-910 の全体的な機能のオン/オフを切り替えます。バイパス時には、オーディオトラックからの音はプラグインで何も加工されず、そのまま通過します。

7.4. アンドゥ

左向きの矢印ボタンはアンドゥで、Pitch SHIFTER-910 で直近に行った変更を取り消します。エディット履歴からある時点の状態を選択していた場合、アンドゥをクリックするたびにその前の状態へ遡っていきます。

7.5. エディット履歴

アンドゥの右にある「ハンバーガー」(横3本線) アイコンをクリックすると、エディット履歴のリストが開きます。リスト内の項目をクリックすると、その時点の状態に戻ります。音作りをしているときに、最初のイメージからかけ離れた音色になってしまい、以前の状態へ戻りたいときに便利です。



7.6. リドゥ

右向きの矢印ボタンがリドゥで、アンドゥで取り消した操作を再実行します。エディット履歴のある時点を選択している場合、リドゥをクリックするたびにその後の状態へ更新していきます。

7.7. CPU メーター

Pitch SHIFTER-910 が現在消費している CPU パワーを表示します。CPU メーターにマウスオーバーすると「PANIC」と表示が変わり、パニックボタンに変わります。音が止まらなくなってしまったときに PANIC ボタンをクリックすると、MIDI パニック・メッセージを送信し、すべての MIDI ノートを停止させ、MIDI CC の値をリセットします。

7.8. リサイズハンドル

CPU メーターの右側にある斜線部分をドラッグすると、Pitch SHIFTER-910 の画面サイズを変更できます。ドラッグしてマウスボタンを放すと、リサイズメニューで設定できる縮尺に最も近いサイズに拡大/縮小します。

コンピュータのウィンドウを開いたり、アプリケーションを変更したりする際に、Pitch SHIFTER-910 の画面が通常とは異なるサイズで表示されることがあります。その場合は、リサイズハンドルに下図のようなアイコンが表示されます：



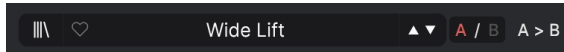
このアイコンをクリックすると、画面を設定可能な最も近いサイズに変更します。

8. WORKING WITH PRESETS - プリセット関連の作業

プリセットブラウザーは、プリセットのブラウズ、検索、選択を、明快で使いやすいインターフェイスで行えるものです。また、オリジナルのプリセットを作成して、ユーザーバンクに保存することもできます。当然ながら、Pitch SHIFTER-910 はプラグインですので、DAW プロジェクトを保存するときにプリセットを含む Pitch SHIFTER-910 のそのときのセッティングも自動的に保存されますので、いつでも保存時の状態から作業を再開できます。

まず、アッパーツールバーにあるプリセット関連の機能から詳しく紹介します。

8.1. プリセットネーム表示エリア



メインパネルやプリセットブラウザーを開いているときでも、プリセット名表示エリアは常に画面最上部の中央に表示されます。ここには、現在選択しているプリセット名が表示されるのは当然ですが、プリセット選んだりロードしたりするための機能も備えています。また、お気に入りに登録したプリセットを選択したときは、プリセット名の左側のハートのアイコンが塗りつぶされた状態で表示されます。

8.1.1. 矢印アイコン

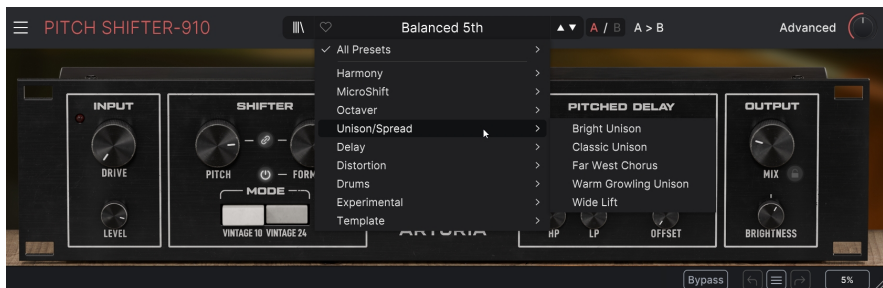
プリセット名表示エリアの右側にある上下の矢印アイコン (▲/▼) で、プリセットを1つずつ順番に切り替えることができます。何らかの検索条件を適用している場合は、それに合致したプリセットのみを順番に切り替えることができます。そのため、全プリセットを順番に切り替えて気に入ったプリセットを見つけたときは、検索条件を完全にクリアにした状態にする必要があります。

8.1.2. クイックブラウザ

チャプター4「アッパーツールバー」で少し触れましたが、アッパーツールバー中央にあるプリセット名表示エリアをクリックするとドロップダウン形式のクイックブラウザが開き、そこからプリセットを選択できます。このメニューの最初にあるオプションは All Presets で、文字通り現在選択しているバンクの全プリセットが入っているサブメニューが開きます：



All Presets の下にある各オプションは、それぞれのタイプと呼応したものです。各タイプにもサブメニューがあり、それに属している全プリセットが表示されます：



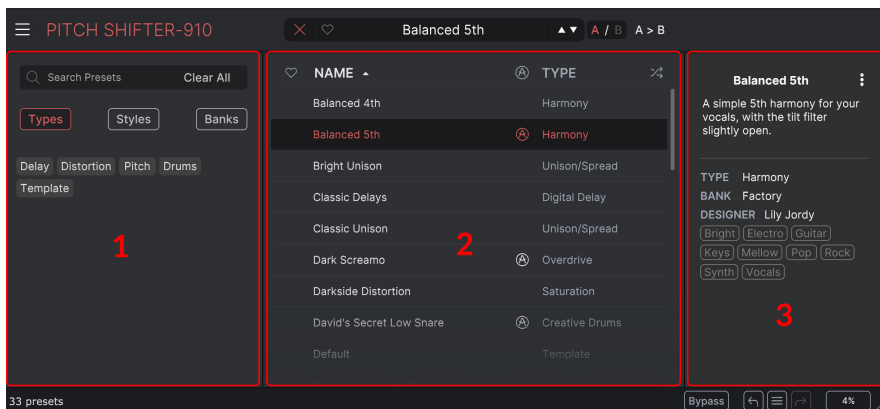
ドロップダウンメニューから Unison/Spread を選び、そのタイプに属している全プリセットを表示

上下の矢印アイコンとは異なり、"All Presets" は検索条件から独立しており、単純に選択可能な全プリセットを表示します。それ以下のタイプのいずれかを選択した場合も、そのタイプに属している全プリセットが表示されます。

8.2. The Preset Browser - プリセットブラウザー

アッパーツールバーにある「本棚の本」アイコン (|||) をクリックすると、プリセットブラウザーが開きます。このとき、「本棚の本」アイコンは大きな「X」に変わり、プリセットブラウザーでの作業が終わったときにこれをクリックすると、プリセットブラウザーが閉じます。

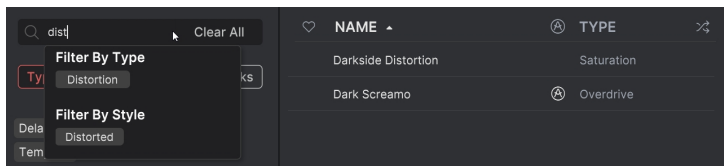
プリセットブラウザーは、次の3つのエリアに分かれています：



#	エリア	内容
1.	検索 [p.44]	検索バーに入力した文字列や、タイプ、スタイル、バンクの各フィルターでプリセットを検索します。
2.	検索結果 [p.47]	検索結果を表示します。検索条件が何もない場合は全プリセットを表示します。
3.	プリセット情報 [p.49]	プリセットの詳細情報を表示します。ユーザーバンクのプリセットの場合は、詳細情報を編集することができます。

8.2.1. Searching Presets - プリセットの検索

画面左上の検索バーをクリックすると、検索ワードを入力できます。このとき、プリセットブラウザーは次の2つの方法でプリセットを検索します。1つは、プリセット名が入力した検索ワードに合致したプリセットを探します。もう1つは、検索ワードがタイプやスタイルに近い場合、それに属しているプリセットも含めて検索結果に表示します。

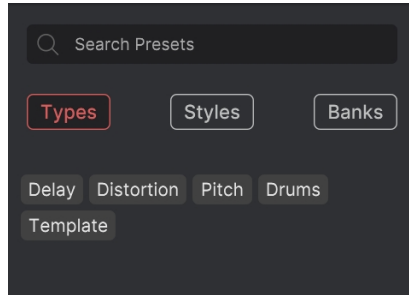


例えば、検索バーに「dist」と入力してフィルタリングすると、その文字列を含むタイプやスタイルのタグが表示され、関連するプリセットが表示されます。

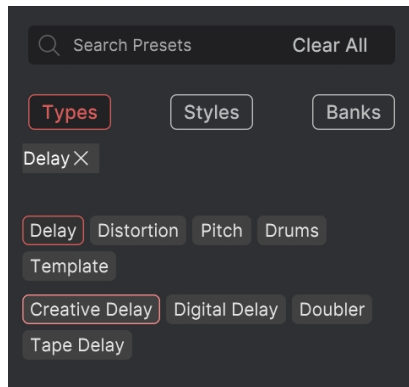
8.2.2. タグで絞り込む

色々なタグを使用して絞り込み検索ができます (場合によっては検索結果を広げることもあります)。タグには **Types** (タイプ) と **Styles** (スタイル) があります。どちらかのタグでも、両方のタグを使用しても検索できます。

8.2.2.1. Types



Types (タイプ) は、Delay、Pitch などのエフェクトのカテゴリーです。検索バーに何も入力していない状態で **Types** ボタンをクリックするとタイプのリストが表示されます。タイプには、クリックすると表示されるサブタイプが含まれていることがよくありますが、Pitch SHIFTER-910 は比較的シンプルな構造ですので、タイプとサブタイプはごくわずかしきありません。

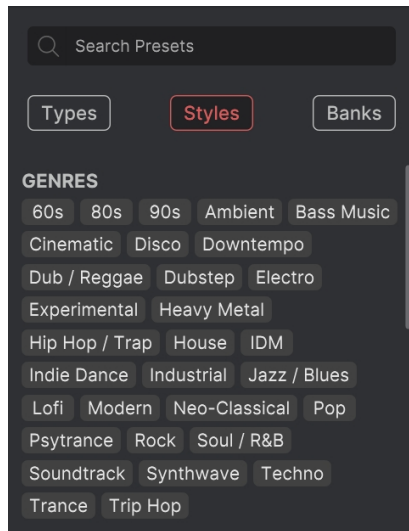


i ! タイプは、プリセットを保存するときに設定できます。そのようにして保存したプリセットは、次回検索するときそのタイプを選択すると検索結果に表示されます。

8.2.2.2. Styles

スタイルというのは、つまり...スタイルです。**Styles** ボタンをクリックするとアクセスでき、このエリアには3つの詳細カテゴリーがあります：

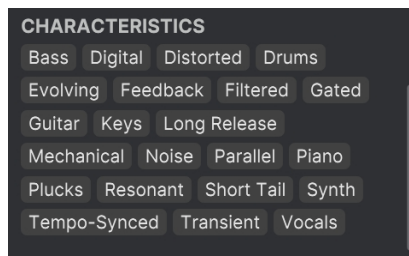
- **Genres**：Ambient、Bass Music、Industrial などの音楽ジャンルです：



- **Styles**：Bizarre、Lush、Thick など、一般的な「雰囲気」を表します：



- **Characteristics**：Filtered、Resonant、Mechanical、Noise など、より詳細なプリセットの特徴です：



タグのいずれかを選択すると、そのタグを含んでいるプリセットのみが表示されます。また、タグを選択すると、通常はその他のタグがいくつかグレイアウト表示になります。これは、該当しないものを対象外にすることでブラウザが検索を絞り込んでいるためです。



! タグをより多く選択すると、その分だけ検索結果が広がります。

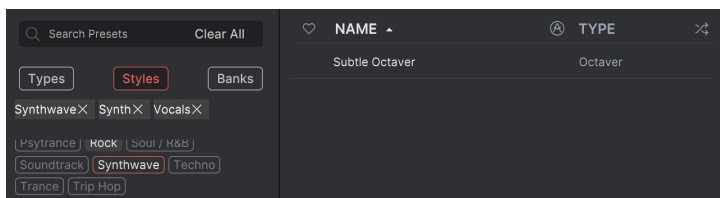
タグの選択を解除すると、検索を最初からやり直すことなく対象を広げることができます。また、上部に表示されたタグ名の右にある **X** をクリックすることでそのタグを外すこともできます。

プリセットの検索は、検索ワード、Types と Styles によるフィルタリング、そしてその両方を使用でき、その場合はさらに絞り込んだ検索が行えます。検索バーにある **Clear All** をクリックすると Types や Styles タグの選択をすべて解除し、検索ワードをすべて消去します。

8.2.2.3. Banks

Types と Styles の隣にあるドロップダウンは **Banks** で、(上記のすべての方法を使った) 検索対象をファクトリーかユーザーバンクのどちらかに限定することができます。

8.2.3. The Results Pane - 検索結果表示エリア



3つのタグを同時に指定してフィルタリングした結果、プリセットが1つだけに絞り込まれた状態

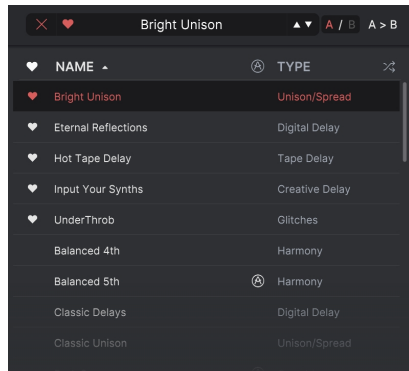
プリセットブラウザの画面中央部には検索結果が表示されます。検索条件をまったく設定していない状態ではバンク内の全プリセットが表示されます。プリセット名をクリックするとそれがロードされます。

8.2.3.1. プリセットの並び替え

表示されているプリセットのリストの最初のコラムにある **NAME** ヘッダをクリックすると、プリセットのリストが ABC 順またはその逆順にソートします。2つ目のコラムの **TYPE** ヘッダをクリックすると同じことがタイプで起こります。

8.2.3.2. プリセットに "いいね" をつける

プリセットをチェックしているときなどに、プリセット名の左にあるハートのアイコンをクリックすることでそのプリセットをマーキング (お気に入り登録) することができます。このアイコンは、アップツールバーのプリセット名表示エリアにも表示されます。ハートのアイコンをクリックしたプリセットは、下図のように検索結果リストのトップに表示されます：

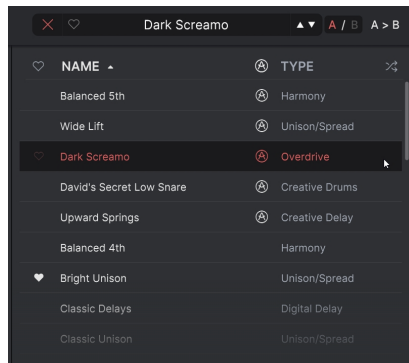


お気に入りプリセットでソート

クリックされた ("いいね" がついた) ハートのアイコンは、中が塗りつぶされます。輪郭線だけのハートのアイコンは (まだ) クリックされていないプリセットです。クリックされたハートを再びクリックすると "いいね" が解除されてリストのトップからは消えて元の位置に戻ります。

8.2.3.3. おすすめファクトリープリセット

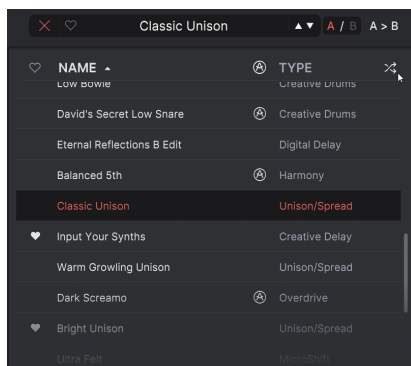
Arturia ログがついているプリセットは、Pitch SHIFTER-910 の各種機能を雄弁に物語っているプリセット、つまりおすすめファクトリープリセットです。



おすすめプリセットでソート

検索結果表示エリアのトップにある Arturia アイコンをクリックすると、リストのトップにおすすめプリセットがすべて表示されます。

8.2.3.4. シャッフルボタン

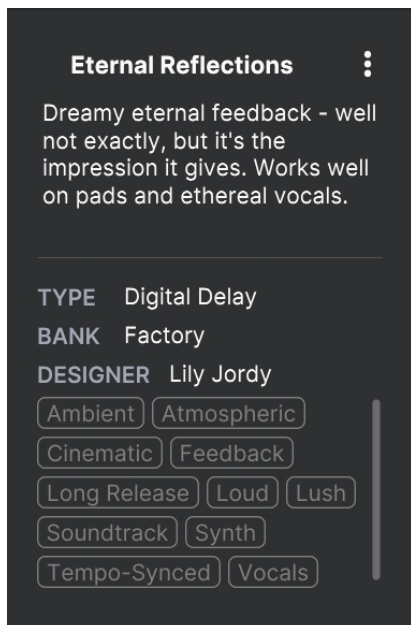


ランダムにソート

2本の矢印が交差しているボタンをクリックすると、プリセットリストをランダムに並べ替えます。リスト全体を1つずつ見ていくよりも、探していたプリセットが見つかりやすくなることもあります。

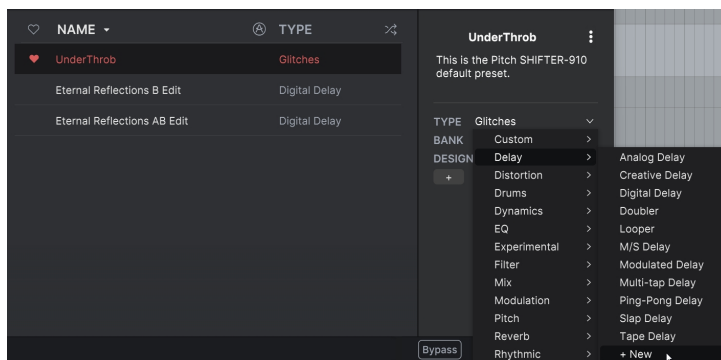
8.2.4. Preset Info Section - プリセット情報

プリセットブラウザの右側には各プリセットの情報が表示されます。



Save As コマンドで保存したプリセット、つまりユーザーバンクのプリセットには、プリセットの各種情報を入力したり編集することができ、リアルタイムにアップデートされます。情報には、プリセットの作者名、タイプ、すべてのスタイルタグのほか、表示エリアの下部にはメモを入力できるエリアもあります。

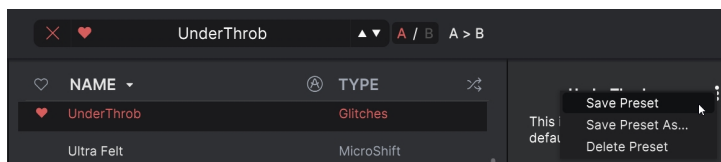
プリセット情報を編集するには、テキストフィールドの情報はそこに入力します。バンクやタイプはプルダウンメニューで変更できます。また、下図のように、階層メニューをたどってタイプを追加選択したり、タイプやサブタイプを新規に作成することもできます。



! タイプとスタイルを変更すると、それが検索結果にも反映されます。例えば、あるプリセットから "Bright" のスタイルタグを外すと、次にそのタグで検索してもそのプリセットは表示されません。

8.2.4.1. クイックメニュー

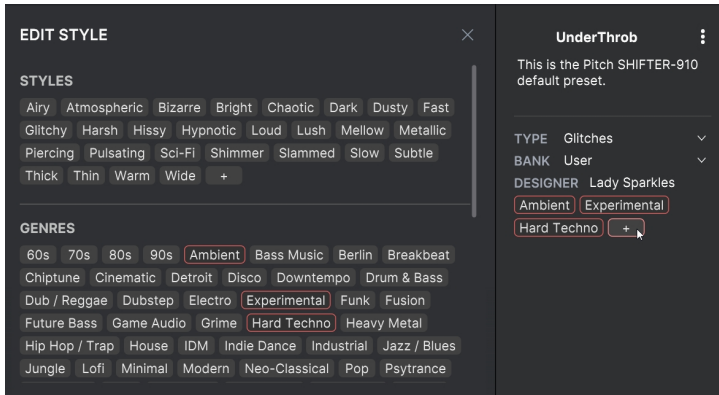
ドットが縦に3つ並んだアイコンをクリックすると、Save Preset、Save Preset As...、Delete Preset のクイックメニューが開きます：



ファクトリーバンクのプリセットでは、Save Preset As... のみが使用できます。これは、誤って上書きや削除をしないように、ファクトリーバンクを保護するためです。

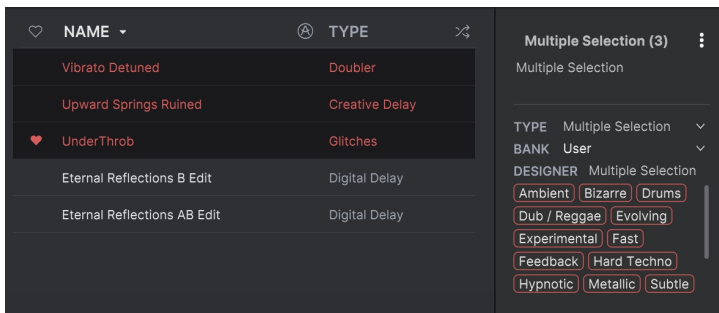
8.2.4.2. スタイルの編集

オリジナルのスタイルタグを作成して、検索条件をもっと自分に合ったものにすることもできます。プリセット情報エリアにある + アイコンをクリックするとスタイル編集エリアが開き、そこで新しいタグを必要なだけ作ることができます (この操作はユーザーバンクでのみ行えます) :



8.2.4.3. 複数のプリセット情報を編集する

複数のプリセットのタイプやスタイル、作者名、メモを同時に編集することも簡単に行えます。同時に編集したいプリセットを検索結果表示エリアのリストで Cmd (macOS) または Ctrl (Windows) キーを押しながらクリックして選択します。次に、タイプやスタイルを変更したり、コメント欄にメモを入力するなどして、保存して完了です。



複数のプリセットを選択

9. ソフトウェア・ライセンス契約

ライセンス料 (お客様が支払ったアートリア製品代金の一部) により、アートリア社はライセンサーとしてお客様 (以下「ライセンサー」) に本ソフトウェア (以下「ソフトウェア」) のコピーを使用する非独占的な権利を付与いたします。

ソフトウェアのすべての知的所有権は、アートリア社 (以下「アートリア」) に帰属します。アートリアは、本契約に示す契約の条件に従ってソフトウェアをコピー、ダウンロード、インストールをし、使用することを許諾します。

本製品は不正コピーからの保護を目的としプロダクト・アクティベーションを含みます。OEM ソフトウェアの使用はレジストレーション完了後のみ可能となります。

インターネット接続は、アクティベーション・プロセスの間に必要となります。ソフトウェアのエンドユーザーによる使用の契約条件は下記の通りとなります。ソフトウェアをコンピューター上にインストールすることによってこれらの条件に同意したものとみなします。慎重に以下の各条項をお読みください。これらの条件を承認できない場合にはソフトウェアのインストールを行わないでください。この場合、本製品 (すべての書類、ハードウェアを含む破損していないパッケージ) を、購入日から30日以内にご購入いただいた販売店へ返品して払い戻しを受けてください。

1. ソフトウェアの所有権 ライセンサーは、ソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有します。アートリアはディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウェアそのものを販売するものではありません。

2. 譲渡の制限 ライセンサーは、ソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、アートリアへの書面による許諾無しに行うことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うことになります。本ソフトウェアをネットワーク上で使用することは、同時期に複数のプログラムが使用される可能性がある場合、**違法**となります。ライセンサーは、本ソフトウェアのバックアップコピーを作成する権利がありますが、保存目的以外に使用することはできません。本契約で指定され、制限された権限以外のソフトウェアの使用にかかる権利や興味を持たないものとします。アートリアは、ソフトウェアの使用に関して全ての権利を与えていないものとします。

3. ソフトウェアのアクティベーション アートリアは、ソフトウェアの違法コピーからソフトウェアを保護するためのライセンス・コントロールとして OEM ソフトウェアによる強制アクティベーションと強制レジストレーションを使用する場合があります。本契約の条項、条件に同意しない限りソフトウェアは動作しません。このような場合には、ソフトウェアを含む製品は、正当な理由があれば、購入後30日以内であれば返金される場合があります。本条項11に関連する主張は適用されません。

4. 製品登録後のサポート、アップグレード、レジストレーション、アップデート 製品登録後は、以下のサポート・アップグレード、アップデートを受けることができます。新バージョン発表後1年間は、新バージョンおよび前バージョンのみサポートを提供します。アートリアは、サポート (ホットライン、ウェブでのフォーラムなど) の体制や方法をアップデート、アップグレードのためにいつでも変更し、部分的、または完全に改正することができます。製品登録は、アクティベーション・プロセス中、または後にインターネットを介していつでも行うことができます。このプロセスにおいて、上記の指定された目的のために個人データの保管、及び使用 (氏名、住所、メール・アドレス、ライセンス・データなど) に同意するよう求められます。アートリアは、サポートの目的、アップグレードの検証のために特定の代理店、またはこれらの従事する第三者にこれらのデータを転送する場合があります。

5. 使用の制限 ソフトウェアは通常、数種類のファイルでソフトウェアの全機能が動作する構成になっています。ソフトウェアは単体で使用できる場合もあります。また、複数のファイル等で構成されている場合、必ずしもそのすべてを使用したりインストールしたりする必要はありません。ライセンサーは、ソフトウェアおよびその付随物を何らかの方法で改ざんすることはできません。また、その結果として新たな製品とすることもできません。再配布や転売を目的としてソフトウェアそのものおよびその構成を改ざんすることはできません。

6. 権利の譲渡と著作権 ライセンシーは、本ソフトウェアを使用するすべての権利を他の人に譲渡することができます。以下の条件を満たすことを条件とします。(a) ライセンシーは、他の人に以下を譲渡します。(i) 本契約および(ii) 本ソフトウェアとともに提供され、同梱され、またはプリインストールされたソフトウェアまたはハードウェア、本ソフトウェアに関するアップデートまたはアップグレードの権利を付与したすべてのコピー、アップグレード、アップデート、バックアップコピーおよび旧バージョンを含む。(b) ライセンシーが本ソフトウェアのアップグレード、アップデート、バックアップコピーおよび旧バージョンを保持していないこと。(c) 受領者が本契約の条件に同意していること。(c) 受領者が、本契約の条件およびライセンシーが有効なソフトウェアライセンスを取得した際のその他の規定を受け入れること。ソフトウェアライセンス 本契約の条件に同意されなかったことによる製品の返品。本契約の条件に同意しなかったことによる製品の返却（製品のアクティベーションなど）は、権利譲渡後にはできません。権利を譲渡した場合、製品の返却はできません。また、ソフトウェア及びマニュアル、パッケージなどの付随物には著作権があります。ソフトウェアの改ざん、統合、合併などを含む不正な複製と、付随物の複製は固く禁じます。このような不法複製がもたらす著作権侵害等のすべての責任は、ライセンシーが負うものとします。

7. アップグレードとアップデート ソフトウェアのアップグレード、およびアップデートを行う場合、当該ソフトウェアの旧バージョンまたは下位バージョンの有効なライセンスを所有している必要があります。第三者にこのソフトウェアの前バージョンや下位バージョンを譲渡した場合、ソフトウェアのアップグレード、アップデートを行う権利を失効するものとします。アップグレードおよび最新版の取得は、ソフトウェアの新たな権利を授けるものではありません。前バージョンおよび下位バージョンのサポートの権利は、最新版のインストールを行った時点で失効するものとします。

8. 限定保証 アートリアは通常の使用下において、購入日より30日間、ソフトウェアが記録されたディスクに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたします。ソフトウェアのすべての黙示保証についても、購入日より30日間に制限されます。黙示の保証の存続期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。アートリアは、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プログラムの性能、品質によるすべての危険性はライセンシーのみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明した場合、ライセンシーが、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

9. 賠償 アートリアが提供する補償はアートリアの選択により (a) 購入代金の返金 (b) ディスクの交換のいずれかになります。ライセンシーがこの補償を受けるためには、アートリアにソフトウェア購入時の領収書をそえて商品を返却するものとします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起因する場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間が30日間のどちらか長いほうになります。

10. その他の保証の免責 上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。アートリアまたは販売代理店等の代表者またはスタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行なったり、保証の範囲を広げるものではありません。

11. 付随する損害賠償の制限 アートリアは、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接的な損害（業務の中断、損失、その他の商業的損害なども含む）について、アートリアが当該損害を示唆していた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または付随的損害に対する責任の排除について認めていない場合があります、上記の限定保証が適用されない場合があります。本限定保証は、ライセンシーに特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行使することができます。